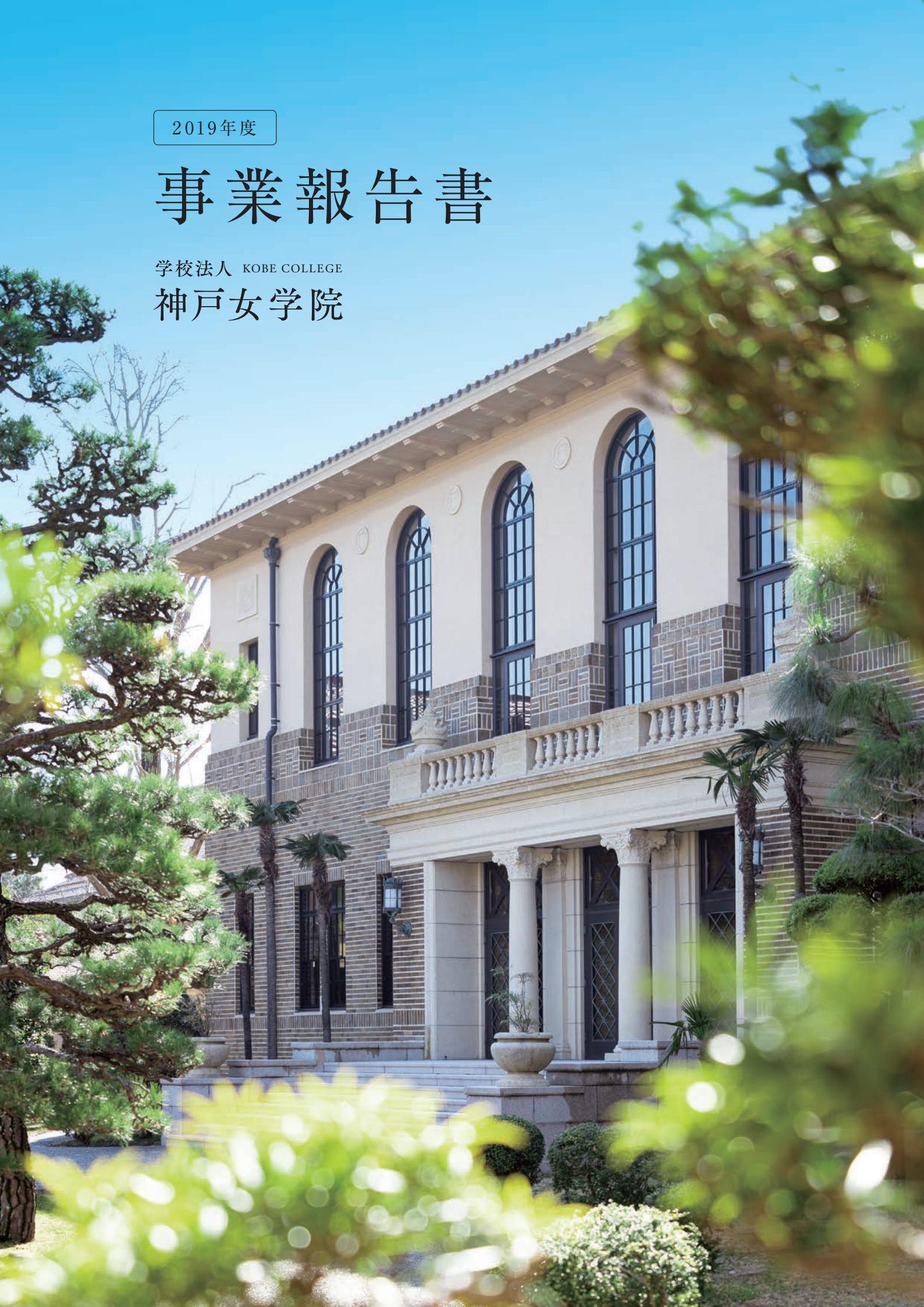


2019年度

事業報告書

学校法人 KOBE COLLEGE

神戸女学院



一人ひとりの個性のきらめき

落語大会やスカッシュ選手権で優勝した学生、数学オリンピックやスポーツチャンバラ選手権で優秀な成績を収めた生徒——2019年度は神戸女学院での個性豊かな活動が実を結んだ喜ばしい一年でもありました。また卒業生もそれぞれの場で自分の使命を果たそうと多彩な活動に邁進されている様子を耳にし、大変嬉しく思っております。

“教育”という言葉の語源は、「〈個々人の持つ能力〉を引き出すこと」だと言われます。つまり個性を活かしていくところに教育の目標の一つがあるのです。本学院では145年前の創立当時から、一人ひとりの学生・生徒が“かけがえのない愛された子”として学び、個として生きうる環境を守りつづけてきました。あらかじめ決められた答えを見つけるのではなく、正解のない問いに対して最善の策を探究し続ける学び。他者のために、社会のために自分は何ができるのかを問い続ける姿勢。それらが本学院の「キリスト教主義リベラルアーツ教育」で育もうとしてきた素養であり、個が輝く活動の原動力となっていると思います。

自立する個性、自立する生き方

大学では2017年より開講した領域横断ゼミ「クローバーゼミ」の成果を感じています。未知の専門分野に触れ、今までになかった視点でテーマを深掘りすることで、多角的な視野で考察する習慣が育まれつつあります。中高部では教科学習や進学だけに拘泥しない学びとして、学外イベントやボランティア活動への参加機会を拡充。社会や世界とつながり視野を広げる活動を重視しています。これら「複数の視点を持つこと」は、社会において他者を思い個を活かす力になるはずです。

大学は、2020年3月に「女子大は、女性大学へ。」をメインコピーとする交通広告を掲出しました。他者の中において自身の個性を活かして使命を探究し続けられる“自立と自律”を叶えた女性を輩出していきたいという本学院の想いが込められています。そのためにも学修・研究の内容や環境をさらに充実させる所存です。今後も本学院の教育の充実を支える同労者として、皆さまの一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

他者とながら、個を活かす。
「キリスト教主義リベラルアーツ教育」で
“生きる力”を育む。

学校法人 神戸女学院
理事長・院長



- 1 理事長メッセージ
- 3 建学の理念・教育目標／
設置学校・学部・学科等／沿革
- 5 大学メッセージ／中高部メッセージ

2019年度のご報告

- 7 大学
「リベラルアーツ教育」で叶える、
他者を生かし自分を輝かせる学び
- 9 中高部
多様な文化や価値の学び
- 11 【地域・社会連携】
地域と、社会と。
学びでつながり貢献する
- 13 【環境整備】
健やかにのびのびと
学べる環境を整備する



図書館本館

1933年、ヴォーリズの設計によって建てられた美しい図書館本館。写真上部の大窓からは、内部にたっぷりの陽光が注ぎます。窓があえて北側に配されているのは、本を保護し、夕方の時間帯にも明るさを保つための工夫。2014年には国の重要文化財に指定されています。

神戸女学院 基本データ

- 17 入学定員・収容定員・在籍者数
- 18 在籍者数推移
- 19 志願者数・合格者数・入学者数
- 20 留学状況
- 22 卒業・修了・博士後期課程単位取得退学、
博士学位授与の状況
- 23 就職・進学状況
- 25 役員・評議員／教職員
- 26 事務組織図

財務の概要

- 27 財務の概要 ～2019年度決算～
- 28 事業活動収支計算書
- 30 資金収支計算書
- 31 貸借対照表
- 32 財務比率の推移

事業計画

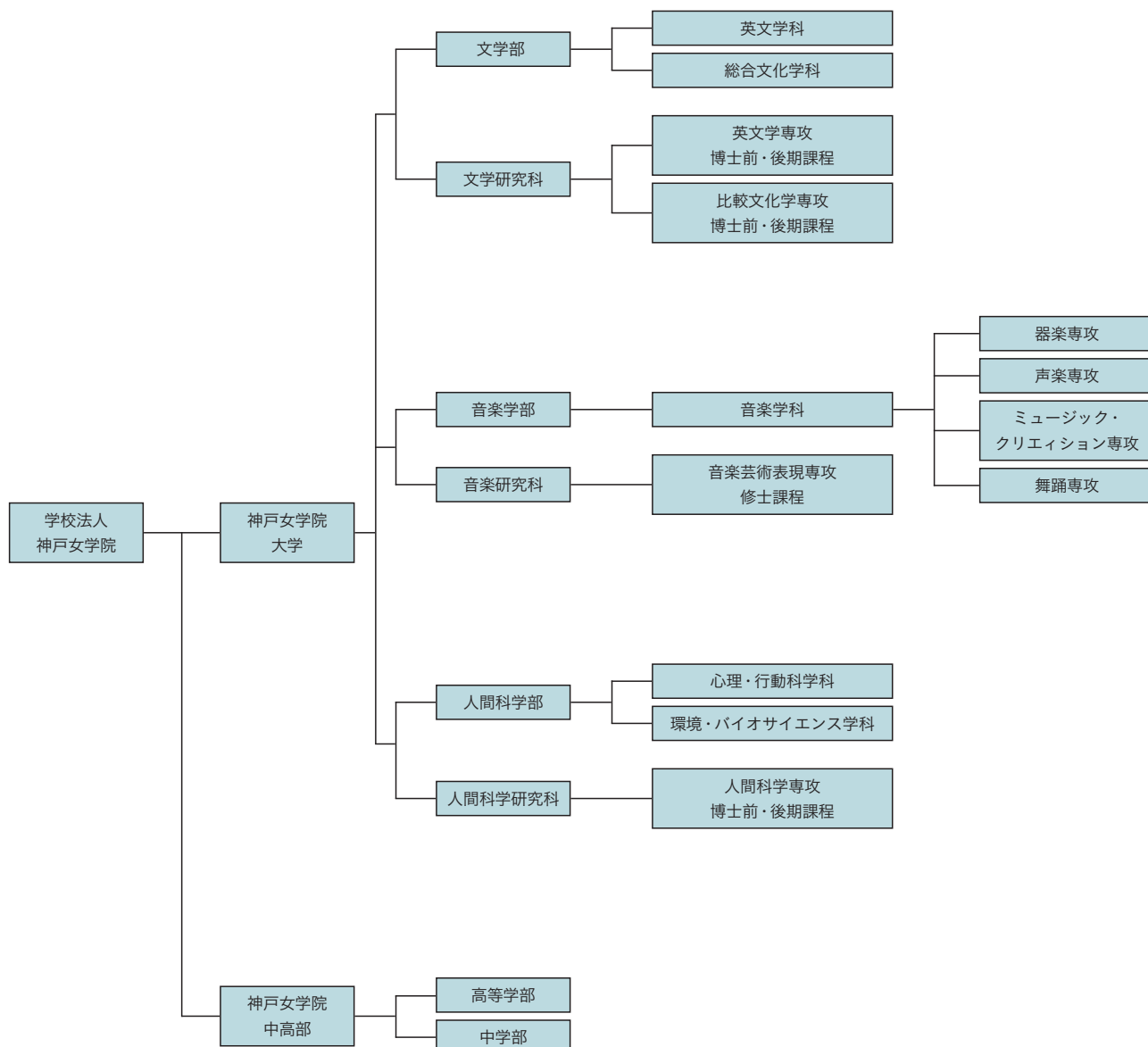
- 33 中期計画（2016-2020）
- 34 2020年度事業計画

建学の理念・教育目標

神戸女学院は、1875年（明治8年）、日本が近代化への一歩を踏み出したその時、アメリカン・ボード中部及び東部婦人伝道会から派遣された宣教師タルカット、ダッドレー両先生によって創立されました。当初から、神戸女学院の教育の根幹はキリスト教と国際理解の精神に根ざした全人教育であり、個性を重んじ、自由で自立した教養豊かな女性の育成でした。以来、高い教養と専門的知識、広

い視野と適確な判断力、さらに語学力を育み、神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」の精神のもと、自らが身を置いた時代や環境の中で、自らの使命を自覚し、地域社会や国際社会で活躍する女性を世に送り出してきました。現代も、この建学の精神と基本的教育目標を堅持しながら、急速に変化する社会の要請に対応して、絶えずカリキュラム内容の充実を図っています。

設置学校・学部・学科等



学校法人 神戸女学院の沿革

1873年(明治6年)	米国で教育者としての経験を持っていたタルカット、ダッドレー両宣教師は、3月に来日。10月、神戸花隈村に私塾を開く。
1875年(明治8年)	創立。山本通に女子寄宿学校を開校。「女学校」と呼ばれる。英語名はGirls' School。初代校長はタルカット、舎監はダッドレーで、当初の学生数は26名(寄宿生3名、通学生23名)。
1879年(明治12年)	校名を「英和女学校」とし、5年制の課程を定め、中等教育のカリキュラムを整備。
1885年(明治18年)	高等科(1年)、および校章を定める。三つ葉のクローバーをかたどった校章は、身体、精神、靈魂の一致調和した完全な人格の育成をめざす学院の理想を表現。
1891年(明治24年)	本格的な女子高等教育を開始、3年制の高等科を設ける。この頃「神戸英和女学校」と名のる。
1894年(明治27年)	「神戸女学院(Kobe College)」と改称。名実ともにCollege(女子高等教育機関)となる。
1906年(明治39年)	教育課程を改正。また、新たに音楽科を置く。
1909年(明治42年)	専門学校令により「専門部(4年制)」(当時の女子高等教育の最高水準)設置認可。
1919年(大正8年)	日本女子大、東京女子大に続き、専門部を「大学部」と称することを認められる。予科1年・本科3年を置く。
1933年(昭和8年)	西宮市岡田山に移転。伝道者・建築家ヴォーリズによってスパニッシュ・ミッション様式の校舎が完成。現在の文学館、理学館、図書館本館、音楽学部1号館、講堂・ソールチャペルを含む総務館などは当初の建物。
1947年(昭和22年)	学制改革により新制中学部設置認可。
1948年(昭和23年)	新制高等学部設置認可。4年制の新制女子大学―「神戸女学院大学」が認可され、文学部(英文学科、社会学科、家政学科)を設置。
1949年(昭和24年)	新制の音楽学科を設置。1952年には音楽学部の認可を受ける。
1965年(昭和40年)	大学院文学研究科(修士課程) 英文学、社会学専攻を設置。
1967年(昭和42年)	家政学科が独立して家政学部となる。
1975年(昭和50年)	創立100周年を迎える。
1976年(昭和51年)	文学部社会学科を改組して総合文化学科とする。
1980年(昭和55年)	大学院の整備・充実が進む。大学院文学研究科(修士課程)に日本文化学専攻を設置。
1989年(平成元年)	大学院文学研究科英文学専攻に博士後期課程を設置。
1990年(平成2年)	音楽専攻科を設置。
1993年(平成5年)	家政学部を改組して、人間科学部人間科学科を設置(家政学部は募集停止)。
1997年(平成9年)	大学院人間科学研究科(修士課程)人間科学専攻を設置。
1999年(平成11年)	大学院人間科学研究科人間科学専攻に博士後期課程を設置。
2000年(平成12年)	創立125周年を迎える。大学院に音楽研究科(修士課程)音楽芸術表現専攻を設置。また大学院文学研究科日本文化学専攻を比較文化学専攻に改称。
2002年(平成14年)	大学院文学研究科比較文化学専攻に博士後期課程を設置。
2004年(平成16年)	大学院文学研究科(博士前期課程)英文学専攻に通訳コースを設置。
2005年(平成17年)	人間科学部に心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科を設置(人間科学科は募集停止)。
2006年(平成18年)	音楽学部音楽学科に舞踊専攻を設置。
2007年(平成19年)	音楽学部音楽学科作曲専攻をミュージック・クリエイション専攻に改組。
2013年(平成25年)	大学院文学研究科社会学専攻を廃止し、一部科目を比較文化学専攻に移行。
2014年(平成26年)	岡田山キャンパスの12棟の建物が、国の重要文化財に指定される。
2015年(平成27年)	創立140周年を迎える。 大学院文学研究科(博士前期課程)英文学専攻にグローバル・スタディーズコースを設置。

大学・中高部から

“生き方”を考え続ける日々を
大学学長と中高部部長

「学ぶ」意義と価値を知る、自立した女性へ

2019年度の「これからの道標」に「帰属意識の醸成」を新たに追加いたしました。学生、教職員、同窓生の本学への意識をさらに高め一丸となって、創立150周年に向け、またその先も視野に入れて方向性を明確にし、ハード・ソフト両面からのグランドデザインの計画を進めていければと思います。

3月には車内交通広告（阪急、大阪メトロ）を2種類掲載いたしました。

【女子大は、女性大学へ。】背筋を伸ばし、しっかりと目を合わせ、いかなる場所においても誠実に向かい合い、意志力を持ち歩み続ける成熟した女性への成長を願うものです。

【地球はもう、丸くない。】SNSや情報網の発達で、自身が経験せずとも考えなくても、「知った、理解した気になること」の驕り、危うさ、怖さを知っていただきたいというメッセージです。

2019年度終盤には、新型コロナウイルス感染拡大による予測不能の状況下で、苦渋の決断をもって卒業式は中止といたしました。当日の同時刻に院長、学長、そして大学の代表メンバーがソールチャペルにて「卒業生のための祈りの集い」を持ち、これからの実りある人生への旅立ちへの祝福の礼拝が守られました。その後、それぞれの専攻やゼミ単位で学位授与が行われました。

本学で学んだ学生たちへの世間の信頼・評判は大変高く、本学のリベラルアーツを柱とした知性・感性のバランスのとれた教育力によるものと自負しております。偏差値偏重の社会において大学にもさまざまな課題はありますが、入学よりも本学を卒業したことに大きな意義と価値ある大学として進んでまいります。

神戸女学院大学 学長

青藤 言子

のメッセージ *Message*

通して、培われるものとは？
からのメッセージです。

2019年度、中高部はさまざまな行事を持ちました。体育祭では、今年も生徒たちが組ごとに丸となり、白熱した競い合いをし、最後には互いにたたえ合うドラマを見ることができました。また文化祭では、クラスごとの団結、クラブ活動の素晴らしい成果を見ることができました。夏休みに行われています、アメリカアカデミックスタディツアー、エンパワーメントプログラムなど、英語をより深く学ぶための環境も整えています。

文化祭に続く芸術鑑賞会では、人間国宝の梅若実玄祥氏が出演する、「ガラスの仮面」の中で描かれている「紅天女」の舞台を鑑賞し、新しい可能性や伝統芸能の深さを学びました。秋のキャンパス見学会においては、模擬授業やキャンパスツアーへの参加を事前予約制とし、過去最大の1,962人の参加人数となりました。

人権学習会は、1年通してLGBTについて知識や考えを深めました。ここでは、今までの枠にとらわれることなく、ありのままの自分で生きることの大切さや、今の社会の問題点などを学ぶことができました。

毎日の朝の礼拝では、神様に向き合い、私たちはどう生きればよいのか、他者のために何ができるのかを問い続けることができています。保護者対象の聖書を学ぶ会は、今年度は会を重ねる度に参加人数を増やし、キリスト教を子どもたちとともに学び、学校のことを理解してくださる保護者の方が増えたことに感謝しています。

学校の建学の精神である、キリスト教主義教育、国際理解の大切な部分は大切にしつつ、新しい挑戦ができる中高部であり続けたいと考えています。

神戸女学院 中学部・高等学部 部長

森谷典史

生徒の好奇心に応え“挑戦できる”環境を大切に



「リベラルアーツ教育」で叶える、 他者を生かし自分を輝かせる学び

神戸女学院大学では他者・社会・世界とつながり、日々の学びを生かす活動を充実。
一人ひとりの個性が輝く、ユニークな取り組みがたくさん生まれています。

学びのフィールドを世界に広げ、国際理解を深める

バングラデシュを訪問し、 現地のファッションのグローバル化を考察

英文学科メジャー科目「Field Study」の2019年度のテーマは「Fashion Field Study in Bangladesh」です。8名の学生は事前研修で身のまわりの「バングラデシュ製品」を調査した後、2020年2月23日～3月3日の日程でバングラデシュを訪問しました。民族衣装や輸出向けアパレル生産の凄まじい変化を見学するとともに、現地で働く人々などとの交流を通じてファッションをめぐるグローバル化について学びました。参加した学生たちは現地の様子を映像に収めており、今後はそれらの映像を編集し、最終報告会で上映する予定です。



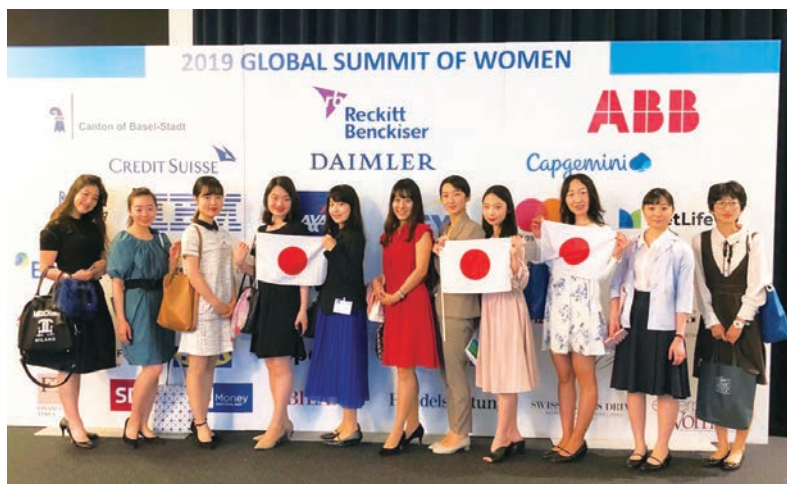
バングラデシュ映画の字幕を学生が制作

2020年3月6日～15日に開催された「第15回大阪アジア映画祭」に英文学科が協賛。上映された「メイド・イン・バングラデシュ (Made in Bangladesh)」の日本語字幕を英文学科の学生28人が制作しました。映画祭中にはシンポジウムも開催し、現地の状況を考察しました。

「2019 Global Summit of Women」 に参加し、世界の女性リーダーに学ぶ

2019年7月4日～7日、スイス・バーゼルにて「2019 Global Summit of Women」が開催されました。この会議に英文学科の学生10名と卒業生1名が、Yolanda TSUDA英文学科教授の引率で参加しました。

「Global Summit of Women」は1990年から開催されており、各国の政府機関や企業・非営利組織等でリーダーとして活躍する女性がプレゼンテーションを行うとともに、参加者同士のネットワーキングを行う国際的な会議です。2019年は、世界70カ国から1,065名の参加者がありました。



「英語落語」が高く評価され、 全日本学生落語選手権で優勝

2020年2月23日、学生落語の日本一を決める「全日本学生落語選手権」の決勝が岐阜市で行われ、英文学科2年生の学生が優勝しました。学生は、小学校3年生から「英語落語」を始め、「ぶりん亭芽りん」の高座名で活動しています。決勝では、英語と日本語を同時に話す独特の形式の落語を披露し、見事に優勝を勝ち取りました。



選手権の様子。「広瀬杯学生落語選抜大会」(2019年8月)でも優勝しています。



ラグビーW杯で語学力を活かし観客を迎えました。



ラグビーW杯で外国人をおもてなし

英文学科4年生の学生が、2019年に開催されたラグビーワールドカップのボランティアスタッフとして活動しました。神戸会場に設置された「街なか&ファンゾーンガイド」で、リーダーとして世界各国から訪れる観客へのおもてなしを担当。「One Team!」の精神で世界各国の人々とボランティアメンバーと交流を図りました。

英文学科特別プロジェクト 「人生への戦略」を実施

英文学科では2018年4月より、特別プロジェクト「人生への戦略」を実施しています。本プロジェクトは、英語を使用する企業に就職を考える3年生を対象にした授業外のプログラムです。外資系金融企業での豊富な経験を持つ講師によるメンタリングセッションや、さまざまな業界で活躍する女性の講師による講演会を実施しています。



本学の学びと社会との関わりが、ブランド価値に

学ぶことの大切さを 交通広告で発信

そろそろ女子大は、「女子」のままだとはいえない。あたらしい時代の空気が、女子たちが「女性」として歩んでいくほうへ、やさしい道い風になって吹いているから。女子が入学するから「女子」大、そうした入口だけの話ではなく、卒業という出口の先まで見すえながら、たとえば、芸術大学の芸術、音楽大学の音楽のように、「女性」の大学として、これまで以上に女性の生きかたと向きあっている。女子たちが、女性として成長し、ひとりの自立した個性として、じぶんの人生を切りひらいていくために、どんなことを学べばいいのかわからない。あたためて考えられることがあると信じて、女子のひとり。ひとりの女性へ。そこには、変わりつつある意志があるはず。

私はまだ、私を知らない。
神戸女学院大学

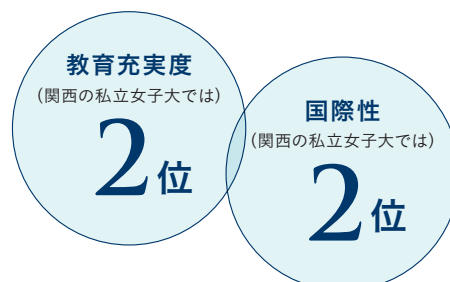
丸くはない。地球はもう、

海のむこうに外国がある。なんて思っていたのは、もう昔のこと。いま地球は、四角い画面のなかにある。行ったことがない地域のことも、会ったことがない人物のことも。私たちは、それなりに知ることができる。「知っている」からこそ、世界の大きさを、じぶんの小ささを忘れて、だれよりも賢く、なにかを語ってしまったりする。なんて大きな勘違いなんだろう。それでも、いまだで聞かれないことを聞かされたり、つながらなかった例がつかないことを聞かされたり、生まれるものだって、きっとある。変わりゆくこの世に、不安ばかりを数えるよりも、ひとつでも多く、あたらしい可能性を見つけていけたら、いつの時代もそうやう、人間は、進んできたんだ。

私はまだ、私を知らない。
神戸女学院大学

「世界大学ランキング」に ランクイン！

2019年度「THE世界大学ランキング 日本版」が発表され、本学は「教育充実度」112位（関西私大11位、関西私立女子大2位）、「国際性」76位（関西私大9位、関西の私立女子大2位）、地域別で27位（私大15位、私立女子大2位）にランクインしました。



出典：イギリスの教育専門誌

「Times Higher Education (THE)」の
2019年度日本版ランキングより

マイバッグデザイン コンテストを開催

プラスチックごみ削減を目的とするレジ袋有料化に合わせ、また世界で広がるSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するために、「神戸女学院大学マイバッグデザインコンテスト」を初めて開催しました。35作品の応募から11作品が入賞しました。



左上の作品が最優秀賞を受賞。他5点の作品は、優秀賞を受賞しました。

多様な文化や価値の学び

中学部・高等学部では、昨年に引き続き、社会とつながり実践的に学ぶ機会を充実。
世界に視野を向けながら自身の未来を見つめ、多角的に考察する力を養いました。

生徒からの多くの要望があった LGBTに関して考察した人権学習会

2018年度アンケートで生徒から一番要望が多かったLGBTを取り上げた人権学習会。1学期は日本LGBT協会の清水代表理事をお呼びして、LGBTの定義やトランスジェンダーである先生のお話を伺いました。2学期は学級ごとにLGBTに関するワークを実施。3学期はその結果をふまえ、神戸女学院大学・矢野准教授、佐藤倫子弁護士、同性パートナーシップを授与された田中氏、川田氏の4人によるトークセッションを行いました。



海外の大学への進学者を招き、 キャリアガイダンスを実施

キャリアガイダンス・プログラムは、中高部生が将来に向け、社会とのつながりの中で主体的なライフ・デザインを行う力をつけることを支援する行事です。2019年度は12月に日本の高校から海外の大学へ直接進学した学生2名を招き、「受験」の流れに身を任せるのではなく、パイオニアとして自らの進路を拓いた経験の分かち合いと助言をいただきました。(2020年3月に予定されていた第2回は休校のため中止となりました)

日本の伝統文化を体感した 家庭科の授業での浴衣の着付け

中学3年生と高校3年生の家庭科でNPO法人和装教育国民推進会議大阪府支部の方にゆかたの着付けを教わりました。基本的な紐の結び方、ゆかたの着付け、帯の結び方、たたみ方を少人数グループで丁寧に指導していただきました。ほとんどの生徒は自分でゆかたを着るのが初めてでしたが、普段触れることの少ない日本の伝統文化を学ぶ良い機会となりました。



「世の光として生きる」をテーマに 議論が白熱した宗教強調週間

2019年11月11日からの宗教強調期間中、中高部では早天祈祷会と特別礼拝に加えて、放課後プログラム「白熱教室」を「世の光として生きる」というテーマで開催しました。4日間のプログラムはどの会も大勢の参加者を得て、白熱教室の名にふさわしい活発な議論がなされました。今年は、KCメディカルから講師をお招きすることもでき、新しいつながりを実感する機会となりました。

アメリカ・ミネソタ州で行われた アメリカ アカデミック スタディツアーに 24名が参加

2019年7月14日から8月4日まで、高校1年生24名と教員2名がアメリカ・ミネソタ州のSt. Croix Lutheran Schoolで行われたアメリカ アカデミック スタディツアーに参加。中国、ベトナム、韓国からの参加者も加え総勢130名ほどの生徒で学びました。午前中は英・数・理・社を学び、午後はグループリーダーの現地高校生やコーディネーターの大学生とアクティビティを通して交流。週末にはホームステイも体験しました。



「赤ちゃん先生」から学ぶ 出産・子育て

家庭科で保育を学んでいる高校1年生とのふれあいのために、NPO法人ママの働き方応援隊西宮校より2カ月～3歳の赤ちゃんとお母さん18組が来校されました。赤ちゃんを抱っこし、絵本の読み聞かせやボール遊びなどで交流。また、お母さんたちからは出産や子育ての話を聞きました。これまで家族に大切に育てられてきたことに感謝し、人生の選択肢の一つとして出産・子育てを考えるきっかけとなりました。



5日間、英語で交流し学ぶ エンパワーメントプログラム

2019年7月22日から26日まで、高校1年生6名、中学3年生49名を対象に、エンパワーメントプログラムが開催されました。11名の学生グループリーダーに導かれ、楽しみながら英語でのスキットやプレゼンテーションを実施。昨年度に引き続きジャマイカ出身のファシリテーターに加え、アメリカの大学生リーダー、各国から日本に留学中の大学生を交えた国際色豊かなプログラムになりました。



私学連合会主催の ポーランド共和国での国際交流に参加

2019年12月21日から29日に高校1年生1名がポーランド共和国クラクフを訪問。現地の高校生との交流やホームステイを通して、ポーランドの歴史・文化に触れ、異文化に対する深い理解を得ました。また英語を母国語としない者同士で、英語でコミュニケーションをするという体験もしました。アウシュビッツ強制収容所見学では、生徒自身のものの見方が変わる非常に貴重な体験となりました。



地域・社会連携

地域と、社会と。 学びでつながり貢献する

2019年度はさらに地元企業や自治体とのコラボレーションが活発化。語学、心理、芸術など専門スキルを活かした地域社会への貢献をはじめ、開かれた学院としてさまざまな取り組みが生まれています。

「移住ミュージアム」の音声ガイドを 学生34名が日本語から英語に翻訳

大学の英文学科 Susan E. JONES 専任講師が担当する「Translation: Theory & Technique II」を受講する学生34名が、神戸市立海外移住と文化の交流センターが運営する「移住ミュージアム」の音声ガイドの翻訳を行いました。地域への貢献を目的に、ミュージアムを訪れる外国人が館内を自分自身で見て回れるよう日本語音声ガイドを英語に翻訳しました。



スミリンケアライフと協定を結び、 高齢者向け住宅での 演奏活動を開始

大学と住友林業グループのスミリンケアライフ（株）が産学連携協定を締結。2020年2月27日には本学内にて協定書の調印が行われました。この協定に基づき、スミリンケアライフ社が西宮市内に開設するサービス付き高齢者向け住宅「エレガーノ西宮」で、音楽学部の学生や院生・卒業生がさまざまな音楽プログラムを実践します。

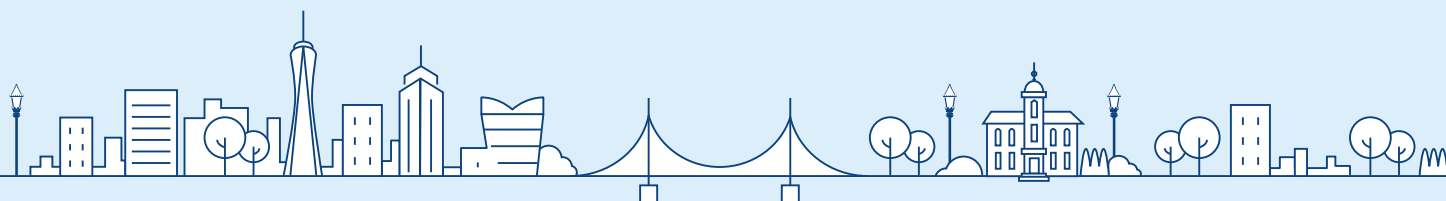
PCITセラピスト養成授業を開始！

大学院臨床心理学分野では、PCITセラピスト養成授業を開始しました。PCIT（親子相互交流療法）は子どもの問題行動を劇的に改善する画期的なセラピーで、日本の大学では初の試みです。トレーナー資格を持つ國吉教授の指導のもと、2019年度は6名のセラピストが誕生し、順次心理相談室でPCITを実践しています。



水上隣保館を訪問し、 児童福祉の現状と課題を学ぶ

中高部ではリベラル・アーツプログラムの一環として大阪水上隣保館を訪問し、職員の方々のご講演と子どもたちとの交流を通して、児童福祉の現状と課題について学びました。困難な状況に置かれている子どもたちとともに生き、子どもたちの幸せのために働く方々の姿から、「愛神愛隣」の精神や自らの使命について考える機会になりました。





オープンキャンパスに訪れた中高生と音楽学部生がともに演奏を満喫

音楽学部では2019年6月と12月開催のオープンキャンパスで、中高生対象の模擬授業を開催しました。部活などで吹奏楽に力を注ぐ中高生が6月は21人、12月は27人が参加。音楽学部ウインドオーケストラと一緒に演奏し、八木澤教司特別講師と松浦修准教授の指導の下、大学の本格的なサウンド作りを体験し、成果をコンサートで発表しました。

生徒が主体的に活動するボランティア団体「雫の会」

「雫の会」は中高部の有志ボランティア団体です。主な活動内容は、ユニセフ募金、フォスタープランでのチャイルド支援、MONO寄付（文房具を回収して発展途上国へ寄付する活動）、書き損じはがき・古切手回収、インクカートリッジ回収などです。会員が意見を活発に出し合い、中高生にできる活動を見出しながら主体的に活動を進めています。



映画、ドラマ等のロケ地として使われています

重要文化財指定後、映画、テレビドラマ、CM、広告写真等のロケ地としての使用希望が増加しており、学事に差し支えない範囲で貸し出しています。2019年夏には、阪神淡路大震災前後の西宮市を舞台とした自主製作映画「にじがたのピアノ」（2020年公開予定）の制作を後援し、講堂等でロケを行いました。



研究成果をより社会に還元するため 産学連携知的財産アドバイザーが着任

独立行政法人工業所有権情報・研修館の産学連携知的財産アドバイザー派遣事業の派遣先に本学が採択され、黒瀬アドバイザーが知財担当顧問として着任されました。優れた研究成果を産学連携により社会へ届けるため、知的財産の基盤整備を推進します。

「第10回 絵本翻訳コンクール」を開催し、7組に賞を授与

2010年に始まった「絵本翻訳コンクール」は、神戸女学院大学が高校生を対象として毎年開催しているものです。今回は記念すべき10回目を迎え、全国308の高校から1,582作品の応募がありました。最優秀賞1組、優秀賞1組、佳作3組、審査員特別賞2組が選ばれ、2019年12月14日に受賞者と関係者をお招きし社交館「KCCルーム」にて表彰式を行いました。



「地域創りリーダー養成プログラム」で地域に貢献

大学で開講されている特色プログラムの一つ「地域創りリーダー養成プログラム」では、4つの班で地域活動を実施。西宮浜班では、夏休みに小学生向け実験講座「わくわく理科実験」の講師を務めたり、放課後学習室に協力するなどの活動を行いました。その他さまざまな地域イベントにも参加しました。

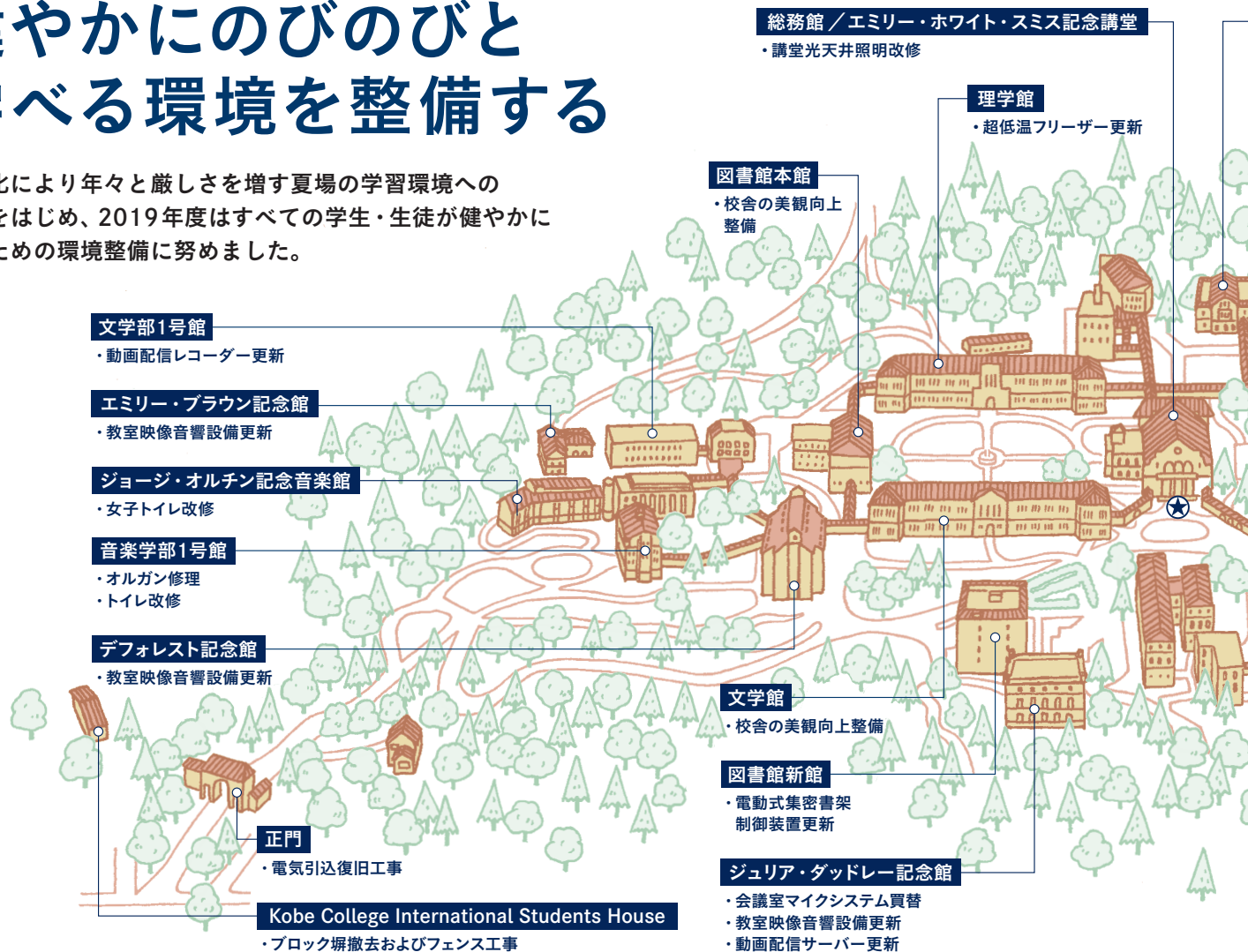


西宮市の「西宮市まちづくり賞」を受賞しました。

環境整備

健やかにのびのびと 学べる環境を整備する

温暖化により年々と厳しさを増す夏場の学習環境への配慮をはじめ、2019年度はすべての学生・生徒が健やかに学ぶための環境整備に努めました。



新型コロナウイルス 感染拡大防止への対応

国内での新型コロナウイルスの感染拡大を受け、大学では3月18日に予定していた2019年度大学卒業式・学位記授与式を中止し、学位記授与は郵送やゼミ単位での授与などにより行いました。また、3月に予定されていた音楽学科舞踊専攻第14回公演（3月12、13日予定）、オープンキャンパス（3月21日予定）を中止としました。さらにウェブサイトを通じ、登校や行動に関する注意喚起、海外渡航に関する注意喚起、新型コロナウイルス感染症への対応について、周知を図りました。

また中高部では、当初3月2日に予定していた高等学部卒業式を2月28日に繰り上げて実施し、その後休校としました。

環境整備 全学の取り組み

受水槽など給水設備を一新し 災害時への備えを拡充

キャンパス北東部、クローバー館の裏手には受水槽2機があり、学院内すべての給水源となっています。しかし設置後25年が経過し、漏水が生じるなど劣化が進行。そこで夏季の学院一斉休業期間中に給水ポンプと合わせて取替工事を実施しました。常時、約120tの貯水量を確保

し災害時なども直ちに断水にならず安心です。また、腐食によるガス漏れが心配されていた古いタイプのガス管（白ガス管）を樹脂製ガス管に更新。キャンパスの安全確保のため予防保全を行いました。

腐食していたガス管を樹脂製に交換。



before

全学的な事業

- ・Windows10対応に伴うPC一括購入
- ・ガス管改善工事

★ … AED 設置

メアリー・アンナ・ホルブルック記念館

- ・ガスクロマトグラフ更新
- ・超純水製造装置更新

メアリー・アンド・グレイス・ストウ学生寮

- ・エアコンクリーニング
- ・家電更新
- ・無線LANルータ設置
- ・個室内壁紙の張替および防カビ工事

第二体育館

- ・壁および床張替工事

岡田山ロッジ

- ・クラブ室エアコン設置

タルカット記念館

- ・被服室改修
- ・トイレ改修
- ・廊下床張替および温水配管撤去工事

葆光館 (中高部)

- ・体育館空調整備
- ・校舎の美観向上整備
- ・屋上防水修理

エッジウッド館

- ・外壁塗装および改修工事

- ・受水槽更新
- ・受水槽ポンプ更新

環境整備 中高部の取り組み

葆光館 (中高部) の体育室の快適さ

葆光館 (中高部) の体育室は、現在、体育の授業やクラブ活動だけではなく、オープンキャンパスや文化祭の展示、さまざまな集会や練習にも使われています。以前は、夏は暑すぎ冬は寒すぎる環境が課題でした。今回の空調工事のおかげで一年中、春や秋のような快適な環境を得ることが可能になります。夏の熱中症や、冬の肌寒さの心配が減り、教員も安心して生徒の指導にあたることができます。今後、異常気象が多くなると予想される中、この空調設備が、これからの生徒活動の手助けになるでしょう。



空調工事で体育館が一年中心地よい温度に。

環境整備 大学の取り組み

岡田山ロッジクラブ室にエアコンを設置

以前より学生からクラブ室にエアコンを設置して欲しいとの要望があり、また、学生の健康上の配慮と、さらなる課外活動の促進を図るため、岡田山ロッジクラブ室 (17部屋) にエアコンを設置しました。今後はクローバー館、第三体育館のクラブ室にも設置する予定です。

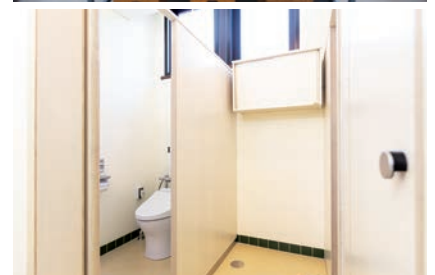


クラブ室内に設置されたエアコン室内機。

環境整備 中高部の取り組み

タルカット記念館の被服室とトイレを改修

タルカット記念館にある被服教室2教室の床の張替、棚と教示台の新調などが行われました。動線が確保しやすくなって実習中の移動がスムーズになり、より安全に授業が行えるようになりました。またトイレは従来の和式からすべて洋式に変わり、洗面台も新しく。清潔で機能的になり、大変使いやすくなりました。



什器を新調した被服室と機能的になったトイレ。



1 学生からの質問に答える山本さん。

2 講演会終了後の茶話会で山本さんを囲んで。



学生支援 大学の取り組み

NHKアナウンサー山本美希氏を講師に迎え、文学部学生主催の講演会を開催

2019年12月7日に6名の学生の企画運営により開催された文学部講演会。本学卒業生のNHK国際放送局 World News部エグゼクティブアナウンサー山本美希さんを講師に迎え、「話す、伝える、伝わる」をテーマにお話いただきました。講演会の前半は、本学での日々、留学、ジャーナリズムの道へ進まれたことなど

ご自身の体験談が中心で、学生たちには刺激的で心に残る時間に。後半は登壇した学生3名をはじめフロアからの質問に回答いただく時間をとり、メディア放送の役割・課題から英語学習への取り組み方まで、中身の濃い話を多くお聞きすることができました。

学生支援 中高部の取り組み

かめのり奨学金によりフィリピンに留学し国際人として活躍するための素養を育む

2019年1月19日から27日まで、中学3年生1名がフィリピンで行われた「かめのり中高生アンバサダープログラム」に参加しました。

フィリピンの観光、現地の高校・大学での日本についてのプレゼンテーション、

JICAと学習施設であるUHFの訪問、日本語を勉強する中高生30人とのフォーラム、フィリピン大学でのフィリピン文化体験など、沢山の経験をしました。この経験は将来の国際貢献につながっていくことでしょう。



1 貧しい地域で学習支援を行うUHFで子どもたちと交流。

2 現地学生とともに学び、笑顔いっぱいで過ごした9日間。

自主活動 中高部の取り組み

シナリオ・リーディング・コンテストで高等学部ESSが優勝

2019年8月31日、松蔭高等学校で開催された阪神ESSユニオン「シナリオ・リーディング・コンテスト」で高等学部ESSが優勝。今年度は初めてミステリーに挑戦。クリスティの名作「オリエント急行殺人事件」を台本に起こし、本番では感情たっぷりに演じました。英語だけでなく演技・オリジナリティが評価されての優勝となりました。



名探偵ワロや容疑者の感情表現が高評価を得ました。

環境整備 中高部の取り組み

GTEC導入2年目の成果

2021年度大学入試から導入される予定だった※英語民間検定試験利用に備え、2018年度より高校生にGTEC受験を導入。2019年度は高校2、3年生にとっては2度目の受験となり、前年度よりスコアが大きくアップ。前年度からの成長を確認でき、大きなモチベーションになっています。生徒たちは本校独自の英語教育で4技能をバランス良く身につけています。

自主活動 中高部の取り組み

スポーツチャンバラ世界選手権大会で生徒が優勝

2019年11月3日、東京で開催されたスポーツチャンバラ世界選手権大会 レディース小太刀で中学2年生の生徒が優勝しました。全身のどこかに剣を当て一瞬で勝敗が決まるこの競技では、極限の集中力を保ち続ける力が培われます。スポーツチャンバラをはじめさまざまな活動を伸びやかに行える環境整備に今後も取り組んでまいります。



世界選手権大会グランドチャンピオン戦予選にて。

環境整備 全学の取り組み

ヴォーリズ建築の本来の輝きと美しさを 美観向上整備により取り戻しました



文学館

東西両面に正面玄関を持つ文学館。長年の黒ずみ・汚れが洗い流され、擬石仕上げと石階段の白さが際立つ当初の洗練美が蘇りました。金属供出で失われたままの二階窓前ロータリーアイアン製手摺の復元が待たれます。

before



図書館本館

とくに汚れやシミが目立ったバルコニー欄干や玄関ポーチ周りがきれいになりました。当初の擬石仕上げの風合いを損ねていた後補のグレー色目地を除去する等、細部に至るまで丁寧な手作業で補修を施しています。



before



徳光館（中高部）

外壁塗膜の浮き・損傷を、劣化した下地モルタルを除去後、当初の川砂掻き落とし仕上げに近い風合いになる色の材料を選び、吹付けリシンにて補修しました。美装化を叶えた校舎は徳光（包まれた光）を放つようです。



神戸女学院 基本データ

入学定員・収容定員・在籍者数 (2019年5月1日現在)

神戸女学院大学

文学部	入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
英文学科	150	158	600	692
総合文化学科	200	226	800	945
計	350	384	1,400	1,637
音楽学部				
音楽学科	46	50	186	170
	(編入) 1	2		
計	47	52	186	170
人間科学部				
心理・行動科学科	90	108	360	440
環境・バイオサイエンス学科	80	103	320	363
計	170	211	680	803
大学 計	567	647	2,266	2,610

神戸女学院大学大学院

文学研究科		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
英文学専攻	博士前期課程	13	3	26	10
	博士後期課程	2	0	6	1
比較文化学専攻	博士前期課程	5	1	10	4
	博士後期課程	2	2	6	2
計		22	6	48	17
人間科学研究科					
人間科学専攻	博士前期課程	10	13	20	20
	博士後期課程	2	2	6	4
計		12	15	26	24
音楽研究科					
音楽芸術表現専攻	修士課程	7	7	14	12
大学院 計		41	28	88	53

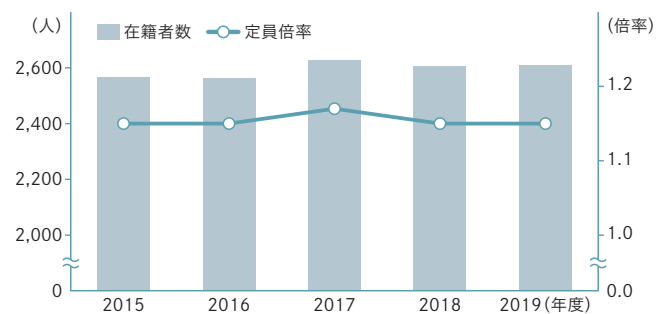
神戸女学院中高部

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍生徒数
中学部	135	145	405	437
高等学部 全日制課程 普通科	—	—	405	414
中高部 計	135	145	810	851

在籍者数推移

神戸女学院大学

学部名	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
文学部	1,615	1,619	1,657	1,658	1,637
音楽学部	180	185	177	170	170
人間科学部	772	759	792	779	803
計 (A)	2,567	2,563	2,626	2,607	2,610
定員 (B)	2,226	2,236	2,246	2,256	2,266
(A)／(B)	1.15	1.15	1.17	1.15	1.15



神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程					
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
文学研究科	23	18	21	23	14
人間科学研究科	22	23	22	17	20
音楽研究科	18	17	15	11	12
計	63	58	58	51	46

博士後期課程					
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
文学研究科	4	2	2	1	3
人間科学研究科	3	4	0	2	4
計	7	6	2	3	7

神戸女学院中高部

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
中学部	419	424	426	435	437
高等学部	411	403	413	413	414
計	830	827	839	848	851

志願者数・合格者数・入学者数

神戸女学院大学 今年度の傾向

2020年度入試においては、年内（2019年）に実施した推薦入試等の志願者が増えた一方で、一般入試や大学入試センター試験を利用する入試等、年明け（2020年）に実施した入試は大きく志願者を減らす結果となりました。2021年度入試から大学入学共通テストをはじめとした大学入試が大きな転換点を迎えることから、受験生心理に強い安定志向が働いた影響と考えられます。最終的な入学者数は想定内におさまりましたが、学科によって偏りのある結果となりました。

神戸女学院大学

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
志願者数	3,753	3,539	4,038	4,284	3,853
合格者数	1,741	1,668	1,377	1,562	1,632
入学者数	655	684	627	647	623

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程					
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
志願者数	44	39	30	42	46
合格者数	31	29	21	25	28
入学者数	27	28	17	24	26

博士後期課程					
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
志願者数	2	1	2	4	1
合格者数	1	1	2	4	0
入学者数	1	1	2	4	0

入試制度別状況

			志願者数	受験者数	合格者数	実質競争率
一般入学試験	前期 A 日程	3 科目型	484	478	228	2.1
		2 科目型	536	528	258	2.0
		音楽学科	14	14	13	1.1
	前期 B 日程		530	526	253	2.1
	前期 C 日程		366	203	62	3.3
	前期 D 日程	センター 1 科目型	185	83	28	3.0
		センター 2 科目型	131	46	17	2.7
大学入試センター試験 を利用する入学試験	前期日程	2 科目型	158	157	70	2.2
		3 科目型	170	170	80	2.1
		4 科目型	74	74	47	1.6
	後期日程	2 科目型	40	40	16	2.5
		3 科目型	24	24	9	2.7
		4 科目型	19	19	7	2.7
一般入学試験 後期日程			153	143	61	2.3
公募制推薦入学試験			681	677	224	3.0
A O 入学試験			55	51	35	1.5
帰国子女入学試験			3	2	1	2.0
社会人入学試験			1	1	1	1.0
外国人留学生入学試験			0	—	—	—
編入学試験			0	—	—	—
国際バカロレア入学試験			0	—	—	—

神戸女学院中学部 今年度の傾向

2020年度入試では、昨年に比べ志願者数がここ4年のうちでは最小の数となりましたが、受験当日の欠席者がゼロであったのが特徴的でした。また遠隔地からの受験者数がこれも昨年に比べ近年に無く少なかったのも特徴的であり、そのことが多少志願者数に影響が出たものと思われますが、殆どの受験生が本学第一志望である傾向は不動のものといえるでしょう。

神戸女学院中高部

中学部					
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
志願者数	255	260	249	262	240
合格者数	162	158	159	155	153
入学者数	145	143	149	145	143
転入学者数	—	—	—	—	—
編入学者数	—	1	—	—	—

高等学部					
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
編入学者数	—	—	1	—	—

*高等学部 全日制課程 普通科 募集なし

留学状況

神戸女学院大学・神戸女学院大学大学院の留学について

2019年度本学からの海外留学（長期・短期）人数は146名（前年度比10名増）となりました。次年度に向けて学生の留学支援、特に語学試験（IELTS、HSK、ハングル検定）対策を強化します。また、海外から本学への受入れ留学生数は61名でした。引き続き学生・教職員の国際理解が深化することを目指して活動します。

本学から海外へ 総計 146人

プログラム	大学名	国名	人数
派遣留学	ロックフォード大学	アメリカ	1
	ボーリンググリーン大学	アメリカ	1
	イーストアングリア大学	イギリス	1
	広東外語外貿大学	中国	2
	揚州大学	中国	2
	淑明女子大学	韓国	1
	徳成女子大学	韓国	2
	ミリアム大学	フィリピン	1
	アサンプション大学	フィリピン	2
	タイキリスト教大学	タイ	1
	国別集計	アメリカ	2
		イギリス	1
		中国	4
		韓国	3
		フィリピン	3
		タイ	1
長期派遣	計		14

プログラム	大学名	国名	人数
認定留学	ニューカッスル大学	イギリス	1
	カリフォルニア州立大学チコ校	アメリカ	1
	ハートウィック大学	アメリカ	1
	オレンジカウンティ大学	アメリカ	1
	モーツァルテウム音楽大学	オーストリア	3
計			7

プログラム	大学名	国名	人数
中期英語留学	チャタム大学	アメリカ	3
計			3

プログラム	大学名	国名	人数
中期海外研修	カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	5
	ヨーク大学	カナダ	8
	クイーンズランド大学	オーストラリア	4
	計		17

プログラム	大学名	国名	人数
語学研修	夏期：ヨーク大学	カナダ	8
	夏期：西オーストラリア大学	オーストラリア	15
	夏期：カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	17
	夏期：昭和ボストンサマープログラム	アメリカ	4
	夏期：ケンブリッジ大学	イギリス	20
	春期：クイーンズランド大学	オーストラリア	20
	春期：ヨーク大学	イギリス	11
	春期：梨花女子大学	韓国	10
	国別集計	カナダ	8
		オーストラリア	35
		イギリス	31
		アメリカ	21
		韓国	10
	計		105

海外から本学へ 総計 61 人

プログラム	大学名	国名	人数
交換留学	ボーリンググリーン大学	アメリカ	1
	サムヒューストン大学	アメリカ	1
	イーストアングリア大学	イギリス	1
	淑明女子大学	韓国	2
	徳成女子大学	韓国	4
	広東外語外貿大学	中国	2
	揚州大学	中国	2
	文藻外語大学	台湾	3
	アサンプシオン大学	フィリピン	1
	国別集計	アメリカ	2
		イギリス	1
		韓国	6
		中国	4
		台湾	3
		フィリピン	1
長期受入	計		17

プログラム	大学名	国名	人数
HONORS	ワイオミング大学	アメリカ	10
日本語	ワイオミング大学	アメリカ	12
-	ボーリンググリーン大学	アメリカ	10
SJCC	セントジョセフ・カレッジ・オブ・コマース	インド	4
-	アサンプシオン大学	フィリピン	6
-	モーツアルテウム音楽大学	オーストリア	2
短期受入	計		44

神戸女学院中高部

本学から海外へ

プログラム	学校名	国名	人数
交換留学	Methodist Ladies' College	オーストラリア	1
計			1

海外から本学へ

国名	人数
トルコ	1
チェコ	1
計	2

卒業・修了・博士後期課程単位取得退学、博士学位授与の状況

神戸女学院大学

	文学部		音楽学部	人間科学部		計
	英文学科	総合文化学科	音楽学科	心理・行動科学科	環境・ バイオサイエンス 学科	
2015年度	169	225	40	104	91	629
2016年度	154	214	50	90	84	592
2017年度	167	216	32	95	95	605
2018年度	171	214	48	87	88	608
2019年度	168	223	44	97	79	611

* 前期末（当該年度9月）卒業を含む

神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	文学研究科		音楽研究科	人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	音楽芸術表現専攻	人間科学専攻	
2015年度	4	6	9	10	29
2016年度	5	1	9	10	25
2017年度	4	0	8	11	23
2018年度	8	2	6	9	25
2019年度	5	1	4	7	17

* 前期末（当該年度9月）卒業を含む

博士後期課程

博士後期課程単位取得退学

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	人間科学専攻	
2015年度	1	—	—	1
2016年度	1	—	3	4
2017年度	1	—	—	1
2018年度	—	—	—	0
2019年度	1	—	—	1

博士学位授与

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学専攻	比較文化学専攻	人間科学専攻	
2015年度	2	—	1	3
2016年度	1	—	—	1
2017年度	—	—	—	0
2018年度	—	—	—	0
2019年度	—	—	—	0
博士後期課程 設置当初からの 累計	9	2	13	24

神戸女学院中高部

	中学部		高等学部
2015年度	139	2015年度	139
2016年度	140	2016年度	128
2017年度	139	2017年度	138
2018年度	142	2018年度	134
2019年度	143	2019年度	139

就職・進学状況

神戸女学院大学

2019年度は経団連が「就活ルール」を主導する最後の年になりました。3月面接解禁、6月採用選考解禁が原則でしたが、実際は夏のインターンシップから採用選考に突入する企業が増加し、就活の「早期化」が加速した感があります。3年生になって本格的に就活の準備をした学生が多数を占めた結果、当年度の就職率（就職希望者に対する就職者の比率）は98.7%となり前年並みの数値となりました。産業別では卸売業・小売業、サービス業が増加、金融業、製造業が減少しました。企業の採用意欲が高かったことにより、大学院進学者は22名となり、昨年より大幅に減少しました。

主な就職先（2020年3月卒業生）

建設業	T&D 情報システム	金融業、保険業	コンラッド大阪
関電プラント	トランスコスモス	三菱 UFJ 銀行	ホテルオークラ神戸
大和ハウス工業	日本アイ・ビー・エム	ゆうちょ銀行	リゾートトラスト
三菱日立パワーシステムズ インダストリー	富士ソフト	りそな銀行	スターバックスコーヒー ジャパン
製造業	富士テレコム	日本マスタートラスト信託銀行	医療、福祉
あみだ池大黒	USEN-NEXT GROUP	三井住友信託銀行	淀川キリスト教病院
イーグル工業	運輸業、郵便業	池田泉州銀行	教育、学習支援業
井村屋グループ	全日本空輸	関西みらい銀行	福岡市中学校教員
オリエンタルモーター	ANA ウイングス	紀陽銀行	アップ
オリバー	ANA エアポートサービス	南都銀行	NOVA ホールディングス
オンワード樫山	ANA 大阪空港	阿波銀行	ベルリッツ・ジャパン
関包スチール	ANA 関西空港	西日本シティ銀行	ヤマハミュージック リテイリング
山陽特殊製鋼	ANA スカイビルサービス	大阪信用金庫	サービス業
ジャヴァコーポレーション	ANA テレマート	北おおさか信用金庫	一般社団法人日本自動車連盟
住友ゴム工業	日本航空	近畿産業信用組合	エイチ・アイ・エス
住友電気工業	JAL スカイ大阪	尼崎信用金庫	国立研究開発法人農業・ 食品産業技術総合研究機構
セイバン	JAL ナビア	神戸信用金庫	セコム
積水化成成品工業	日本トランスオーシャン航空	兵庫県信用組合	総合警備保障
タカスタンダード	ドリームスカイ名古屋	SMBC 日興証券	日本旅行
テルモ	K スカイ	大和証券	パーソルテンプスタッフ
日本精工	ジェイアール東海 パッセンジャーズ	野村證券	バリューマネジメント
日本圧着端子製造	西日本旅客鉄道	ソニー損害保険	阪急交通社
日本サンガリアベレージ カンパニー	上組	損害保険ジャパン	PwC 京都監査法人
日本製菓	神鋼物流	チューリッヒ保険会社	ベネフィット・ワン
ノエビア	住友倉庫	三井住友海上火災保険	三菱電機エンジニアリング
バンドー化学	三菱倉庫	MYJ	公務
福井村田製作所	三井倉庫ロジスティクス	住友生命保険	防衛省航空自衛隊
ポッカサッポロフード＆ ビレレッジ	三井倉庫ロジスティクス	大同生命保険	大阪府
前田製菓	ヤマトロジスティクス	日本生命保険	大阪市
ミキモト	郵船ロジスティクス	明治安田生命保険	富田林市
ムーンバット	卸売業、小売業	兵庫六甲農業協同組合	兵庫県
村田製作所	アズワン	ジェーシービー	尼崎市
ローム	エコートレーディング	不動産業	神戸市
ロックベイント	大月真珠	住友不動産販売	高砂市
電気業	加藤産業	積水ハウス不動産関西	奈良市
九州電力	サンセイテクノス	東急リバブル	四国中央市
情報通信業	住商 CRM	三井不動産リアルティ	その他
NHK 旭川放送局	第一実業	宿泊業、飲食サービス業	日本年金機構
愛媛朝日テレビ	布亀	ANA クラウンプラザ ホテル大阪	
NTT ファシリティーズ関西	富士貿易	近鉄・都ホテルズ	
NTT フィールドテクノ	山善		
キャンノンシステムアンド サポート	青山商事		
住友化学システムサービス	近鉄百貨店		
住友電工情報システム	資生堂ジャパン		
ダイワボウ情報システム	生活協同組合コープこうべ 博多大丸		
	阪急阪神百貨店		
	ホンダカーズ大阪		
	ロクシタンジャポン		

備考

- ・前期末卒業を含まない
- ・就職者：自営業主等（音楽講師等、自営とみなした者を含む）
常用労働者（無期雇用労働者、フルタイム勤務相当の有期雇用労働者）
- ・進学者：大学院進学者のみ
- ・社名は、変更されている場合があります

神戸女学院大学

主な進学先（2020年3月卒業生）

学校名
英文学科
兵庫教育大学大学院 学校教育研究科
総合文化学科
神戸女学院大学大学院 文学研究科
音楽学科
神戸女学院大学大学院 音楽研究科
心理・行動科学科
神戸女学院大学大学院 人間科学研究科
奈良大学大学院 社会学研究科
環境・バイオサイエンス学科
神戸女学院大学大学院 人間科学研究科
山梨大学大学院 医工農学総合教育部
神戸大学大学院 人間発達環境学研究科
兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科
奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科

年度毎の就職決定状況

	卒業者数	希望者数	決定者数	決定者／ 希望者	進学者数	決定者／ (卒業者－進学者)
2015年度（2016年3月卒業生）						
英文	168	153	151	98.7%	2	91%
総合文化	222	204	202	99%	4	92.7%
音楽	40	18	15	83.3%	8	46.9%
心理・行動	104	85	82	96.5%	14	91.1%
環境・バイオサイエンス	91	79	78	98.7%	5	90.7%
総計	625	539	528	98%	33	89.2%

2016年度（2017年3月卒業生）

英文	152	137	135	98.5%	8	93.8%
総合文化	209	191	188	98.4%	3	91.3%
音楽	50	21	21	100%	7	48.8%
心理・行動	90	82	81	98.8%	6	96.4%
環境・バイオサイエンス	83	74	74	100%	4	93.7%
総計	584	505	499	98.8%	28	89.7%

2017年度（2018年3月卒業生）

英文	165	149	148	99.3%	3	91.4%
総合文化	212	188	185	98.4%	5	89.4%
音楽	32	18	18	100%	4	64.3%
心理・行動	95	80	80	100%	7	90.9%
環境・バイオサイエンス	94	78	77	98.7%	6	87.5%
総計	598	513	508	99%	25	88.7%

2018年度（2019年3月卒業生）

英文	169	157	156	99.4%	3	94%
総合文化	211	199	196	98.5%	4	94.7%
音楽	47	22	22	100%	7	55%
心理・行動	86	63	61	96.8%	16	87.1%
環境・バイオサイエンス	88	74	74	100%	8	92.5%
総計	601	515	509	98.8%	38	90.4%

2019年度（2020年3月卒業生）

英文	165	151	149	98.7%	1	90.9%
総合文化	219	203	198	97.5%	1	90.8%
音楽	44	23	23	100%	8	63.9%
心理・行動	95	83	83	100%	5	92.2%
環境・バイオサイエンス	76	68	68	100%	7	98.6%
総計	599	528	521	98.7%	22	90.3%

神戸女学院中高部

進学状況は非公表

役員・評議員（2019年5月1日現在）

理事

第1号理事 院長(理事長) 定員1名、現員1名 飯 謙
第2号理事 学長 定員1名、現員1名 斉藤言子
第3号理事 中高部長 定員1名、現員1名 林 真理子
第4号理事 めぐみ会 ^{※1} 推薦会員で理事会選任 定員3名、現員3名 永井敬子 和氣節子 松本真千子
第5号理事 評議員会選任 定員2名、現員2名 伊藤良子 皆本礼子

第6号理事 コーポレーション ^{※2} 推薦 理事会選任 定員3名、現員3名 伊藤栄子 原田恵子 溝口 薫
第7号理事 理事会選任学識経験者 定員4名、現員4名 柴谷享一郎 菅根信彦 桂 充弘 橋本恵里子

監事

定員2名、現員2名 下村俊子 梅田玲子

評議員

第1号評議員 学識経験者(理事会選任) 定員11名、現員11名 橋本恵里子 竹中禮子 伊藤良子 関本雅子 内山由紀 石田忠範 芹野與幸 内田 樹 内藤 能 久保田哲夫 西澤他喜衛
第2号評議員 卒業生(めぐみ会推薦評議員会選任) 定員8名、現員8名 皆本礼子 三川摩子 浦邊純子 小澤妙子 大橋悦子

尾崎日佐子 杉本雅代 前田厚子
第3号評議員 教職員(理事会推薦評議員会選任) 定員8名、現員8名 中野敬一 小林哲郎 溝口 薫 森谷典史 喜多牧子 北田京子 井出敦子 林 典宏
第4号評議員 コーポレーション推薦 評議員会選任 定員4名、現員4名 Martha Mensendiek 田邊 欧 水野多美 小澤純子

※1 めぐみ会…正式名称「公益社団法人神戸女学院めぐみ会」は、キリストの教えに基づく神戸女学院の立学の精神を重んじて、その教育の振興を助成し、会員の教養を高め相互の親睦を図るとともに、社会に貢献することを目的とした組織です。めぐみ会の主たる会員は、神戸女学院が設置した学校の卒業生です。(在校生は準会員)
※2 コーポレーション…「Kobe College Corporation-Japan Education Exchange」は、神戸女学院の維持管理と募金のためにアメリカ合衆国イリノイ州シカゴに設立された財団であり、1920年の設立時より現在に至るまで本学院のための募金活動을 続け、現在では主に、中高部英語教員や大学客員教員の派遣、本学学生への海外インターンシップの機会提供、奨学金などの支援を行っています。

教職員（2019年5月1日現在）

在籍教職員数

	教授	准教授	専任講師	助教	任期制教員	特任教授	特任助教	客員教員	客員研究員	特別客員	計
英文学科	8	8	1	0	0	0	0	1	0	0	18
総合文化学科	14	9	1	0	0	1	0	1	1	0	27
音楽学科	6	4	0	0	2	0	0	2	0	0	14
心理・行動科学科	5	5	0	0	1	0	0	0	0	0	11
環境・バイオサイエンス学科	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
一般（体育）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
共通英語教育研究センター	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
計	45	28	4	0	3	1	0	4	1	0	86

	教諭
高等学部	22
中学部	21
計	43

	専任事務職員	専任労務職員	契約職員	計
法人	21	0	1	22
大学	52	0	5	57
中高部	5	0	0	5
計	78	0	6	84

	嘱託事務職員	嘱託教学職員	計
週5日	0	0	0
週4日	3	9	12
週3日	1	2	3
週2日	0	5	5
週1日	0	0	0
計	4	16	20

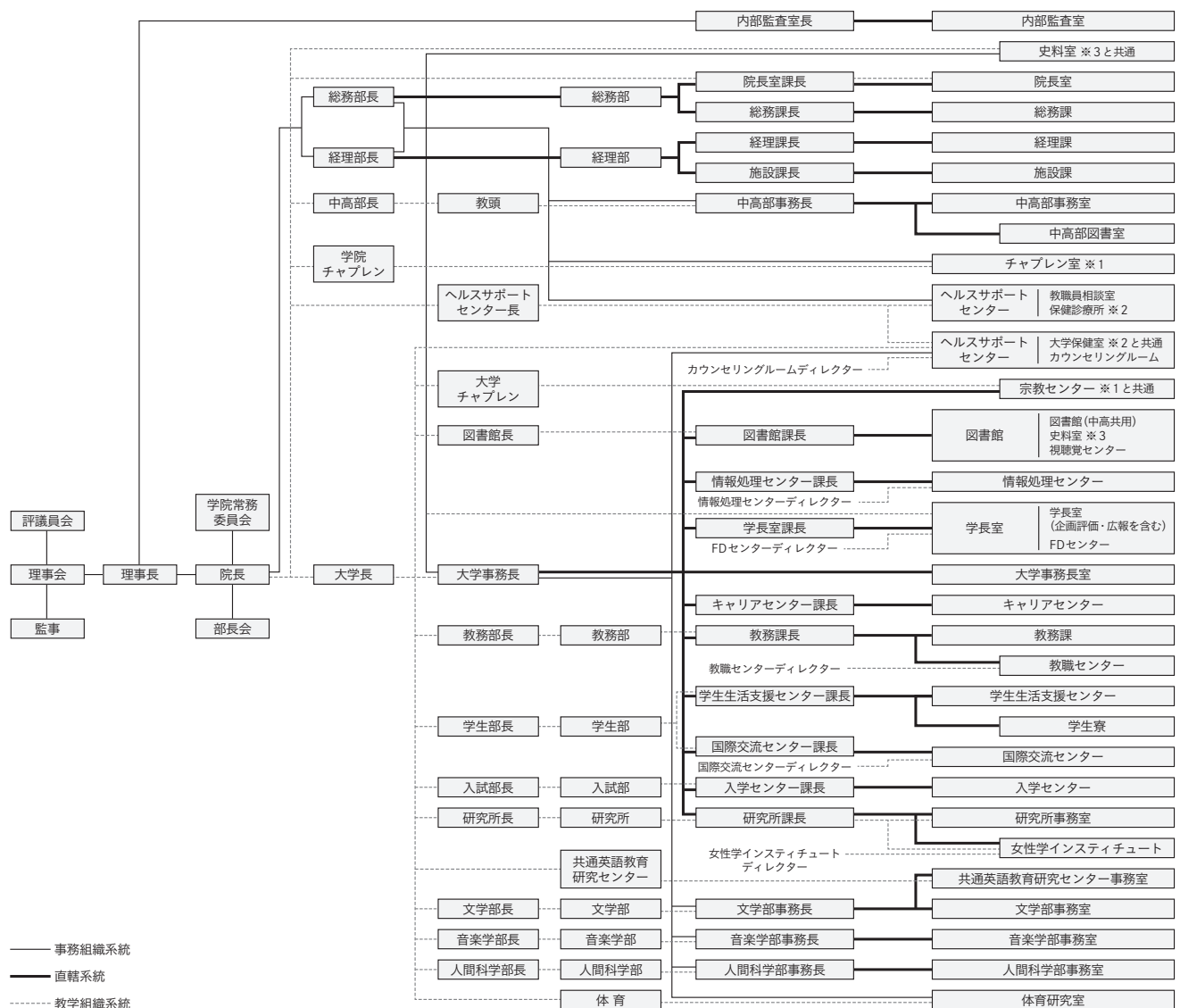
在籍教職員数推移

		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
大学	専任教員	88	89	91	84	86
	非常勤講師	321	317	309	362	362
	大学計	409	406	400	446	448
中高部	専任教員	42	40	42	43	43
	非常勤講師	16	16	16	23	25
	中高計	58	56	58	66	68
	計	467	462	458	512	516

		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
法人	専任職員※	76	77	75	79	84
	嘱託職員	28	25	22	22	20
	計	104	102	97	101	104

※契約職員含む

事務組織図 (2019年5月1日現在)



財務の概要

～2019年度決算～

学校法人会計とは

学校法人とは、学校教育法及び私立学校法の定めるところにより、私立学校の設置を目的として設立された法人です。企業は営利追求を目的としますが、学校法人は永続的な教育研究活動という極めて公共性の高い事業遂行を目的としており、今後の活動を継続的かつ安定的に遂行するため、収支の均衡状況や財政状態を正確に捉えることが重要となります。このように、学校法人と企業とは目的が異なるため、学校法人は企業会計基準とは別の会計基準が必要となります。

一方、国または地方公共団体より補助金の交付を受ける学校法人は、経理内容の透明性・信頼性を確保すべく、「私立学校振興助成法」において、文部科学大臣の定める基準に従い計算書類を作成し、外部監査を受けて所轄庁へ届出することが義務付けられています。

このように、学校法人の目的に合致し、私学助成を受ける学校法人が遵守すべき統一的な会計処理基準として「学校法人会計基準」が定められています。これに従い、本学院も「事業活動収支計算書」「資金収支計算書」「貸借対照表」などの財務書類を作成し公開しています。

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、③その他の活動に対応する事業活動の収支の内容を示し、すべての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにするために行うものです。2019年度の事業活動収支計算書の概要は以下の通りです。

教育活動収支差額

教育活動収入は、学校法人の本業である教育活動からの収入です。2019年度の教育活動収入は、49億49百万円で、前年度比1億8百万円の減少となりました。内訳をみますと、学生生徒等納付金41億32百万円は前年度比で18百万円増加したほか、経常費等補助金4億41百万円は前年度比11百万円の増加となりました。一方、寄付金は、71百万円と高額の寄付を頂いた前年度に比べ53百万円の減少となりました。また、私立大学退職金財団等交付金の減少により、雑収入が1億42百万円と前年度比78百万円減少したことも、教育活動収入の減少に影響しました。

教育活動支出は、学校法人の本業である教育活動に関する支出です。2019年度の教育活動支出は、49億28百万円で前年度比1億4百万円の減少となりました。内訳をみると、人件費30億98万円は前年度比64百万円の減少となりました。これは、退職金に係る人件費が減少したことによります。このほか、教育研究経費15億11百万円は前年度比16百万円の減少、管理経費3億18百万円は前年度比23百万円の減少となりました。

以上の結果、教育活動収支差額は20百万円の黒字となりました。前年度比では5百万円の減少となっています。

経常収支差額

教育活動外収入と教育外活動支出は、経常的な資金調達・運用といった財務活動に伴う収支です。2019年度の教育外活動収入は、第3号基本金特定資産に含まれていた有価証券の売却益47百万円などにより受取利息・配当金が85百万円と前年度比32百万円の増加となっております。

経常収支差額は、教育活動収支差額に教育活動外収支差額を加算した額です。2019年度の経常収支差額は、1億4百万円の黒字と前年度比27百万円の増加となりました。

基本金組入前当年度収支差額

特別収入は、有価証券売却差額や施設設備補助金中心に47百万円となり、前年度比18百万円の増加となりました。一方、主に施設・設備等の資産処分差額により構成される特別支出は10百万円となり、前年度比1百万円増となりました。この結果、特別収支差額は、36百万円の黒字と前年度比16百万円の増加となりました。

経常収支差額に特別収支差額を加えた基本金組入前当年度収支差額は、1億41百万円となり、前年度比43百万円の増加となりました。

2019年度の基本金組入額合計は、学院隣接土地の購入等により4億95百万円となったことから、基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を差引いた当年度収支差額は、3億53百万円の赤字となり、前年度比2億71百万円の赤字幅拡大となりました。

事業活動収支計算書

(単位:百万円)

	科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
教育活動収支	事業活動収入の部				
	学生生徒等 納付金	4,132	4,132	4,114	18
	手数料	101	97	107	△ 10
	寄付金	66	71	124	△ 53
	経常費等 補助金	446	441	430	11
	付随事業収入	62	63	59	4
	雑収入	124	142	220	△ 78
	教育活動 収入計	4,932	4,949	5,057	△ 108
	事業活動支出の部				
	人件費	3,066	3,098	3,162	△ 64
	教育研究経費	1,527	1,511	1,527	△ 16
	管理経費	315	318	341	△ 23
	徴収不能額等	-	0	-	0
	教育活動 支出計	4,908	4,928	5,032	△ 104
教育活動外収支	教育活動 収支差額	23	20	25	△ 5
	事業活動収入の部				
	受取利息・ 配当金	80	85	53	32
	教育活動外 収入計	80	85	53	32
	事業活動支出の部				
	借入金等利息	0	0	0	0
	教育活動外 支出計	0	0	0	0
	教育活動外 収支差額	79	84	52	32
	経常収支差額	102	104	77	27
	事業活動収入の部				
特別収支	資産売却差額	14	14	0	14
	その他の 特別収入	29	33	29	4
	特別収入計	43	47	29	18
	事業活動支出の部				
	資産処分差額	8	10	7	3
	その他の 特別支出	0	0	2	△ 2
	特別支出計	8	10	9	1
	特別収支差額	35	36	20	16
	基本金組入前 当年度収支差額	138	141	98	43
	基本金組入額合計	△ 502	△ 495	△ 180	△ 315
当年度収支差額		△ 363	△ 353	△ 82	△ 271
前年度繰越 収支差額		△ 1,298	△ 1,298	△ 1,216	△ 82
基本金取崩額		-	0	-	0
翌年度繰越 収支差額		△ 1,662	△ 1,652	△ 1,298	△ 354

(参考)

事業活動収入計	5,056	5,081	5,140	△ 59
事業活動支出計	4,917	4,940	5,042	△ 102

教育活動収支

経常的な収支のうち、本業である教育研究活動の収支。

教育活動外収支

主に財務活動(資金調達と資産運用に係る活動)の収支。

経常収支差額

経常的な事業活動による収入(経常収入)とコスト(経常支出)の収支差額(バランス)。

特別収支

特殊要因による臨時的な事業活動収入(施設設備取得に対する補助金等)や資産売却損益等。

基本金組入前当年度収支差額

旧帰属収支差額。単年度における事業活動全体の収支差額。

基本金組入額合計

学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額。

当年度収支差額

旧消費収支差額。基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を控除した額。長期的収支バランスの判断指標。

前年度繰越収支差額

翌年度繰越収支差額

当年度収支差額の累積額。

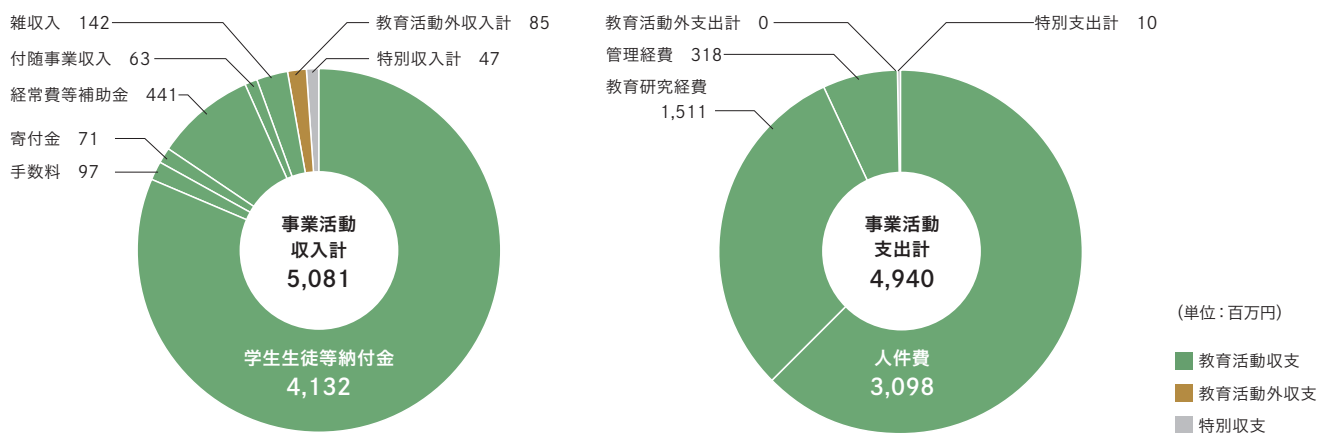
事業活動収入

旧帰属収入。借入金収入や前受金収入等の負債となる収入を除いた正味の収入(現物寄付を含む)。

事業活動支出

旧消費支出。資金支出のない減価償却費や資産処分差額等も含まれ、学校法人の正味の費用。

事業活動収支の内訳



事業活動収支推移 (収入・支出)

(単位: 百万円)

科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
事業活動収入計	5,033	4,918	5,291	5,140	5,081
事業活動支出計	4,743	5,039	4,897	5,042	4,940
基本金組入額	370	348	83	180	495

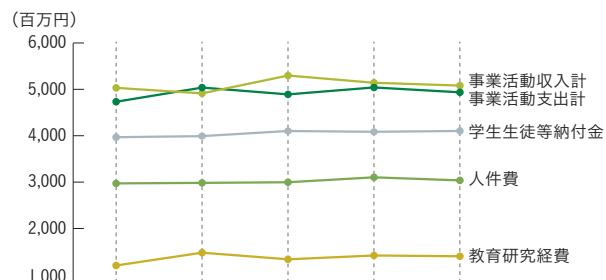
学生生徒等納付金	4,001	4,024	4,131	4,114	4,132
手数料	94	89	102	107	97
補助金(教育+特別)	496	471	546	458	469
人件費	3,035	3,046	3,059	3,162	3,098
教育研究経費	1,318	1,586	1,447	1,527	1,511
管理経費	374	349	371	341	318

事業活動収支推移 (収支差額)

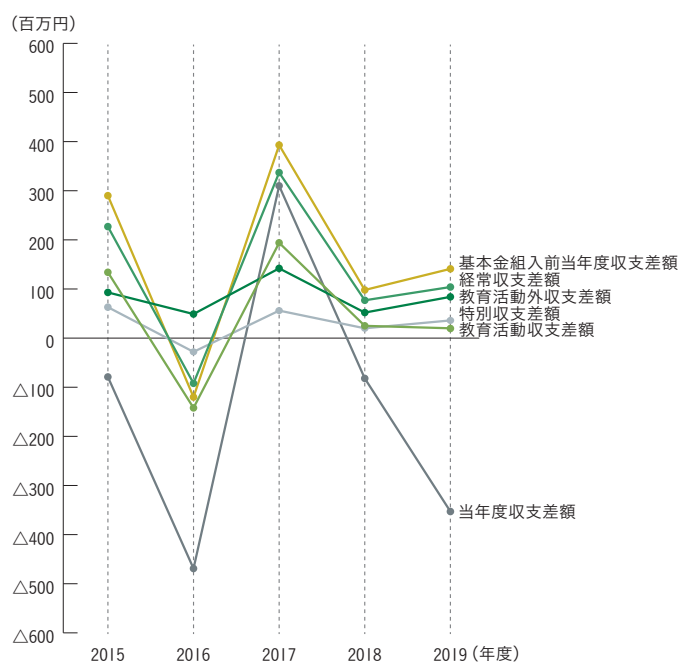
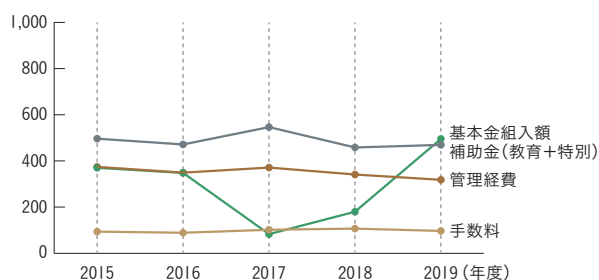
(単位: 百万円)

科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
教育活動収支差額	134	△ 142	194	25	20
教育活動外収支差額	93	49	142	52	84
経常収支差額	227	△ 92	337	77	104
特別収支差額	63	△ 28	56	20	36
基本金組入前当年度収支差額	290	△ 120	393	98	141
当年度収支差額	△ 79	△ 469	310	△ 82	△ 353

1,000 ～ 6,000 百万円



0 ～ 1,000 百万円



資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに支払資金（現預金）の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。事業活動収支計算書と資金収支計算書はその作成目的が異なるため、事業活動収支計算書では資金の出入りを伴わない項目も計上されますが、資金収支計算書では資金の出入りが反映されます。例えば、有価証券の売却を行った場合、事業活動収支計算書では、売却収入と有価証券の簿価（有価証券の取得価額）の差額が資産売却差額（または資産処分差額）として処理されますが、資金収支計算書では、売却収入額が計上されます。2019年度の資金収支計算書の概要は以下の通りです。

資金収支計算書

（単位：百万円）

収入の部				
科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
学生生徒等納付金収入	4,132	4,132	4,114	18
手数料収入	101	97	107	△ 10
寄付金収入	66	71	124	△ 53
補助金収入	474	469	458	11
資産売却収入	420	420	0	420
付随事業・収益事業収入	62	63	59	4
受取利息・配当金収入	80	85	53	32
雑収入	106	127	219	△ 92
借入金等収入	-	-	-	-
前受金収入	695	681	716	△ 35
その他の収入	258	2,110	140	1,970
資金収入調整勘定	△ 759	△ 777	△ 882	105
前年度繰越支払資金	3,118	3,118	2,993	125
収入の部合計	8,755	10,601	8,106	2,495

（参考）

収入の部合計－前年度 繰越支払資金	5,637	7,483	5,113	2,370
----------------------	-------	-------	-------	-------

支出の部				
科目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	増減 (A)-(B)
人件費支出	3,061	3,094	3,170	△ 76
教育研究経費支出	1,203	1,187	1,198	△ 11
管理経費支出	287	290	314	△ 24
借入金等利息支出	0	0	0	0
借入金等返済支出	13	13	13	-
施設関係支出	408	414	62	352
設備関係支出	83	84	119	△ 35
資産運用支出	93	2,101	109	1,992
その他の支出	204	195	198	△ 3
資金支出調整勘定	△ 110	△ 128	△ 197	69
翌年度繰越支払資金	3,509	3,346	3,118	228
支出の部合計	8,755	10,601	8,106	2,495

（参考）

支出の部合計－翌年度 繰越支払資金	5,246	7,255	4,988	2,267
----------------------	-------	-------	-------	-------

収入の部

以下、2019年度の資金収支の収入の部について説明しますが、事業活動収支計算書と重複する部分は、前述の事業活動収支計算書をご覧ください。

資産売却収入には、有価証券の売却収入4億20百万円（前年度なし）が計上されています。借入金等収入は2019年度もありませんでした。前受金収入は、6億81百万円と前年度比35百万円減少しました。また、その他の収入には、第3号基本金引当特定資産及び岡田山建築保存引当特定資産に含まれる有価証券の売却に伴う特定資産取崩収入16億1百万円を中心に21億10百万円となり、前年度比19億70百万円の増加となりました。

前期末前受金及び期末未収入金（資金収入調整勘定）を控除し、前年度繰越支払資金を加算した収入の部合計は、106億1百万円となり、前年度比では24億95百万円の増加となっています。

支出の部

次に、2019年度の支出の部について説明します。収入の部同様に、事業活動収支計算書と重複する部分は、前述の事業活動収支計算書をご覧ください。

借入金返済支出は、2019年度も約定返済を実施しており前年度と同額の13百万円となりました。施設関係支出は、学院隣地購入を中心に4億14百万円となり、前年度比で3億52百万円の増加となりました。設備関係支出は、視聴覚施設の充実、エアコン整備、トイレ改修等により84百万円となり、前年度比では35百万円の減少となっています。資産運用支出は、第3号基本金引当特定資産、岡田山建築保存引当特定資産等に含まれる有価証券の売却等による有価証券から預金への振替に伴う繰入支出18億1百万円を含む21億1百万円となり、前年度比では19億92百万円の増加となりました。前期末前払金及び期末未払金（資金支出調整勘定）を控除し、翌年度繰越支払資金を加算した支出の部合計は、106億1百万円で、前年度比では24億95百万円の増加となりました。

貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末の財政状態（運用形態と調達源泉）を明らかにするものです。
2019年度の貸借対照表の概要は次の通りです。

貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
固定資産	15,440	15,485	△ 45
有形固定資産	8,604	8,448	156
土地	1,691	1,340	351
建物	3,912	4,056	△ 144
構築物	449	474	△ 25
教育研究用機器備品	456	494	△ 38
管理用機器備品	28	30	△ 2
図書	2,064	2,050	14
車両	0	1	△ 1
特定資産	6,445	6,389	56
第3号基本金引当特定資産	1,707	1,630	77
退職給与引当特定資産	1,424	1,438	△ 14
減価償却引当特定資産	3,136	3,136	-
岡田山建築保存引当特定資産	175	184	△ 9
その他の固定資産	390	647	△ 257
電話加入権	3	3	-
ソフトウェア	32	48	△ 16
有価証券	200	406	△ 206
差入保証金	3	3	△ 0
出資金	21	20	1
貸与奨学金	129	162	△ 33
その他	0	0	-
流動資産	3,421	3,350	71
現金預金	3,328	3,100	228
修学旅行費預り資産	18	17	1
未収入金	60	212	△ 152
前払金	14	20	△ 6
資産の部合計	18,861	18,835	26

負債の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
固定負債	1,582	1,608	△ 26
長期借入金	157	170	△ 13
退職給与引当金	1,424	1,438	△ 14
流動負債	942	1,031	△ 89
短期借入金	13	13	-
未払金	117	189	△ 72
前受金	681	716	△ 35
預り金	110	94	16
修学旅行費預り金	18	17	1
負債の部合計	2,524	2,639	△ 115

純資産の部			
科目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
基本金	17,989	17,494	495
第1号基本金	15,928	15,510	418
第3号基本金	1,707	1,630	77
第4号基本金	354	354	-
繰越収支差額	△ 1,652	△ 1,298	△ 353
翌年度繰越収支差額	△ 1,652	△ 1,298	△ 353
純資産の部合計	16,337	16,195	142
負債及び純資産の部合計	18,861	18,835	26

資産の部

2019年度末の固定資産は、154億40百万円と前年度比45百万円の減少となりました。前年度比減少となったのは、有形固定資産が土地の増加を中心に1億56百万円の増加となったほか、特定資産が第3号基本金特定資産の積立等に伴い56百万円の増加となったものの、その他の固定資産が有価証券の売却、貸与奨学金の回収により、2億57百万円の減少となったことによります。

2019年度末の流動資産は34億21百万円となり、前年度比では、現金預金の増加を中心に、71百万円の増加となりました。

2019年度末の資産の部合計は、188億61百万円と前年度比26百万円の増加となりました。

負債の部

2019年度末の固定負債は、15億82百万円と前年度比26百万円の減少となりました。これは、私立学校振興・共済事業団からの長期借入金の約定返済により13百万円の減少となったほか、退職給与引当金の14百万円の減少等によるものです。

2019年度末の流動負債は、9億42百万円と前年度比89百万円の減少となりました。前年度減少の内訳をみると、未払金、前受金が減少しています。

2019年度末の負債の部合計は、25億24百万円と前年度比1億15百万円の減少となりました。

純資産の部

2019年度末の基本金は、179億89百万円と前年度比4億95百万円の増加となりました。前年度比の内訳は、土地購入、設備拡充により第1号基本金[※]が4億18百万円増加、第3号基本金^{※※}が77百万円増加しております。

2019年度末の繰越収支差額は△16億52百万円となり、前年度比で、事業活動収支における当年度収支差額(△3億53百万円)相当額、マイナス幅が拡大しております。

※ 第1号基本金は、学校法人が設立当初に取得した教育の用に供される固定資産及び教育の充実に資するため取得した固定資産の価額となっています。

※※ 第3号基本金は、基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭その他の資産の額となっています。

財務比率の推移

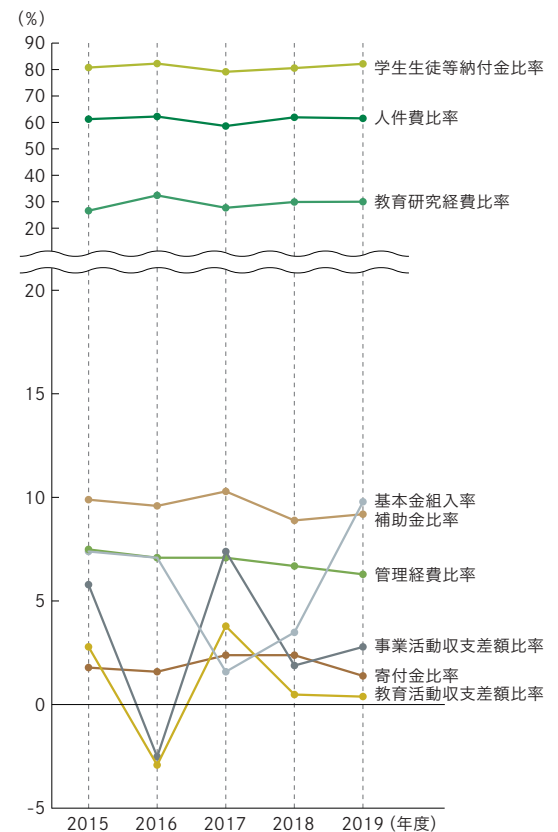
過去5年間の事業活動収支計算書、貸借対照表の財務諸比率の推移は次の通りです
(財務諸比率は単位未満を四捨五入して表示しています)。

事業活動収支計算書関係比率

(単位: %)

比率名	計算式	評価	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	全国平均	同規模平均
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	61.2	62.2	58.6	61.9	61.5	53.0	49.5
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	26.6	32.4	27.7	29.9	30.0	33.4	39.8
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	7.5	7.1	7.1	6.7	6.3	8.8	7.2
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	—	80.7	82.2	79.1	80.5	82.1	74.8	46.3
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	△	1.8	1.6	2.4	2.4	1.4	2.1	1.6
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	9.9	9.6	10.3	8.9	9.2	12.6	10.9
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△	2.8	△2.9	3.8	0.5	0.4	3.0	2.3
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△	5.8	△2.5	7.4	1.9	2.8	4.6	4.0
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	7.4	7.1	1.6	3.5	9.8	10.8	10.0

- (注) 1. 評価欄は「△: 高い値が良い」「▼: 低い値が良い」「—: どちらともいえない」を示しています。
(日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」、日本私立大学連盟「新学校法人会計基準の財務比率に関するガイドライン」を参考に記載。以下同じ。)
2. 経常収入 = 教育活動収入計 + 教育活動外収入計
3. 平均値は2018年度決算の平均値であり、全国平均は医歯系法人を除く全国507大学法人の平均値、同規模平均は学生生徒数3～5千人規模の全国109大学法人の平均値を示しています。

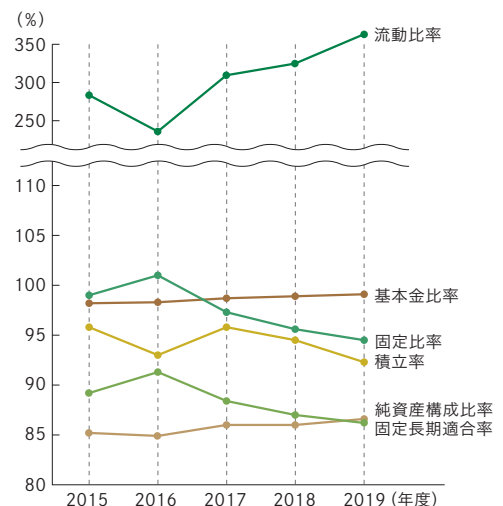


貸借対照表関係比率

(単位: %)

比率名	計算式	評価	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	全国平均	同規模平均
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	283.5	236.0	309.6	324.9	363.1	246.6	303.0
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	▼	99.0	101.0	97.3	95.6	94.5	98.8	95.3
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	▼	89.2	91.3	88.4	87.0	86.2	91.7	88.3
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	98.2	98.3	98.7	98.9	99.1	97.3	97.8
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	△	85.2	84.9	86.0	86.0	86.6	87.8	87.5
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	95.8	93.0	95.8	94.5	92.3	79.3	69.9

- (注) 運用資産 = 現金預金 + 特定資産 + 有価証券
要積立額 = 減価償却累計額 + 退職給付引当金 + 第2号基本金 + 第3号基本金



中期計画 (2016-2020)

(2020年3月25日 理事会承認)

はじめに

神戸女学院は1875年の創立以来、「キリスト教主義」、「国際理解の精神」、「リベラルアーツ教育」を軸とする少人数制の女性教育によって、才気あふれる多くの卒業生を輩出してまいりました。わたしどもはこれからも、時代と対話しつつ、永久標語「愛神愛隣」への理解を深め、培ってきた教育の姿勢をさらに展開させ、高い他者共感性を備えて世界に仕え、もって未来を切り拓く生徒・学生を送り出してまいります。

本学院の創立者であるお二人の女性宣教師は、米国最初の海外宣教団体アメリカンボードより派遣され、切支丹禁令の高札撤去直後の1873年4月、神戸に着任されました。伝道開始から間もなく出会った数名の婦人らより子女への教育を請われ、私塾で聖書と英語と音楽などを教えます。2年後に「女学校」が開設されました。開校に際して、創立者イライザ・タルカットは、生徒たちに「目を上げ、背筋を伸ばし、前を見なさい」と語りかけ、神の前に一人のひととして立つ自立的かつ自律的な、聖書に基づく人間の在り方を示しました。もう一人の創立者ジュリア・ダッドレーも「愛神愛隣」の聖句をもって、キリスト教の理解に大切な「隣人愛」を教えました。お二人に続く宣教師の先生方は教育の方法としてリベラルアーツの理念を導入し、今日の礎を築かれました。現在、神戸女学院には中学部、高等学部、大学、大学院に約3,500人が学び、多様な場面に立ち向かう知性と教養を身につけるため、それぞれの目標と専門に応じた研鑽を重ねています。

今般の事業計画を立てるにあたり、大学と中高部はそれぞれ「目指す姿」を提示しました。キリスト教、国際性、リベラルアーツ、豊かな人間性など、先達から継承した多くの指標が共有されています。私学は元来、訴えるべきメッセージがあって歩み始めた教育共同体です。これからも、150年にわたって受け継いできたものを大切に、お支えくださる方々の思いに学び、不足点をだし、カリキュラム、教育・研究環境、グローバル化・技術化への対応、社会からの要請など諸課題に取り組み、新たな歴史を創り出してまいります。

(理事長・院長 飯 謙)

大学 中期計画

I. 目指す姿

〈大学像〉

豊かな人間性と国際感覚を育む、日本を代表するキリスト教主義リベラルアーツ女性大学

〈学生像〉

21世紀にふさわしい教養と高い知性、高い語学力、そして「愛神愛隣」の精神を身に付け、どのような立場に置かれても十分に能力を発揮し、状況に立ち向かうことのできる学生

II. 取り組みの概要

1. 「これからの道標」の深化、その評価と検証

① 次期中期目標・計画の推進

2. リベラルアーツ教育の充実と応用

① 専門教育科目の深化

② カリキュラムの円滑な運用と効果の検証

③ 各分野の有機連携、大学院レベルにつながる指導の推進

④ 教職課程を通して、現場から求められる教員の育成、カリキュラムの充実

⑤ キャリア意識の醸成

3. 学修環境、学修支援環境の充実

① カリキュラムの理念と目標を全学レベルで共有し、学生の自主的な学びを促進

② プロジェクト科目を推進し、サービslラーニング(社会貢献を通じた学び)に積極的に取り組む

③ キャンパス内におけるバリアフリー化の推進

4. グローバル時代への対応

① 「豊かな国際感覚」「高い語学力」の育成の検証、さらなる英語教育の強化、学生の海外語学研修制度の充実

② 神戸女学院大学の国際化ビジョンにのっとり国際化の推進

③ 海外提携校の拡充と見直しを進め、留学生の受け入れ体制を充実

5. SDGsを見据えた社会貢献・地域連携の強化

6. キャリア・サポート体制の充実

① 社会情勢に即した支援、指導体制の強化

7. IR (Institutional Research) 機能の推進・強化

8. 広報体制の強化

① 本学の取り組みの迅速かつ効果的な学内外への発信

② ホームページの充実と活性化

9. 学院創立150周年に向けた取り組み

① 重要文化財を有するキャンパスの、Student Firstを軸にしたブランドデザインの策定とその具体化

10. 本学への帰属意識の向上

① 揺るがない建学の精神のもと、学生、教職員、同窓生が誇りと自信を持ち、本学に関わっていく意識を醸成

中高部 中期計画

I. 目指す姿

〈中高部像〉

恵まれた学修環境の中で、キリスト教教育、国際理解教育、リベラルアーツ教育、生徒主体の学校生活によって、豊かな人間性とリーダーシップを育む。

〈生徒像〉

21世紀の社会に必要とされる女性リーダーとなるべく、高い学力と幅広い知識、卓越した語学力や異文化理解力、豊かな情操、コミュニケーション能力、人生についての明確なビジョン、創造性、洞察力、使命感、思考の柔軟性、レジリエンスなどを兼ね備えた豊かな人間性を身に付ける。

II. 取り組みの概要

1. カリキュラムの充実

① 2024年度の学習指導要領改訂に備え、カリキュラムをさらに質の高く生徒のニーズにこたえるものに整える。

② アクティブ・ラーニングをさらに充実させる。

2. 国際理解教育の充実

① オーストラリア アカデミック ツアーやアメリカ アカデミック スタディーツアーを一層充実したものにする。

② エンパワメントプログラムを一層充実したものにする。

③ 国際的な活動に取り組んでおられる方の講演を聞いたり国際交流したりする機会を増やす。

3. 一人ひとりの生徒へのきめ細かい学修支援

① 生徒一人ひとりが、教職員やカウンセラーとの出会いの中で困りごとを解決し、実り豊かな学校生活が送れるよう、きめ細かい支援をする。

4. 学修環境の充実

① ITセンターコンピュータのシステムを更新する。

② 普通教室や特別教室の環境をさらに充実させる。

2020年度事業計画

(2020年3月25日 理事会承認)

1. 大学

大学では次の重点項目を定め、これらを踏まえた施策・全学的取り組みを優先し採択しました。

2020年度重点項目(番号：優先順位)		
1. 学修環境の充実	2. 広報	3. 国際化の推進
4. 社会連携の強化	5. リベラルアーツ教育の推進	

重点項目別の主な事業計画は以下のとおりです。

①学修環境の充実

- ・本学のIT環境基盤(ネットワーク、パソコン教室、サーバシステム)を引き続き安定的に維持運営するための支援を受けます。
- ・2021年度に予定しているネットワークシステムのリプレイスに向けて、現状の問題点の洗い出しと最新の関連技術などの収集、次期システムの要求仕様の作成の支援を受けます。当支援により、関連した最新技術を把握した上での次期システム設計が可能になります。
- ・Windows7のサポート終了に伴い、デフォレスト館設置の証明書発行機関係の機器を更新します。同時に学生証の認証をICカード化し、カードの磁気不良により頻発していた煩雑な手続きを解消します。
- ・クラブ室エアコン設置事業の2年目として、クローバー館クラブ室(20室)のエアコン設置を完了します。
- ・学生寮の学習・生活環境の向上を図るため、学習机にデスクマットの設置、家電の買替え、浴室・シャワー室の脱衣棚の改修を行います。
- ・本学図書館システムを国立情報学研究所(NII)が2020年に運用を開始するシステム(CAT2020)に対応させるための作業を行います。
- ・本学図書館蔵書検索システム(OPAC)で、図書・雑誌だけでなく電子ブックも検索できるように仕様変更します。
- ・図書館新館地下2階の電動式集書架制御装置の製本雑誌収納書架1カ所の交換作業を行います。2016年度から進めてきた事業が完了し、より安定的に使用することができるようになります。
- ・入学式、卒業式などに活用されている動画配信サーバー、レコーダーの更新を引き続き行います。反転授業や教材としての動画活用が促進されることで、より良い学修環境、研究環境の提供につながります。
- ・文学館中教室(L-3、L-7、L-10)の視聴覚設備の改修を行います。
- ・デフォレスト館大教室ならびにエミリー・ブラウン記念館中教室の映像音響設備の改修を完了します。映像音響環境の充実により、英語リスニングなどの環境差がなくなり学修環境の向上につながります。
- ・文学館L-4、L-13の机ならびに椅子を、クローバーゼミなどアクティブラーニング系授業に対応しやすい可動式のものに入れ替えます。
- ・英語自学自習ツール(ATR)を2020年度も引き続き導入し、学生の英語4技能の強化を図ります。

②広報

- ・2017年度から継続しているブランディング施策の一環として、2020年度は東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、これまでの電車の車内広告に加え、航空機の機内誌に新たに広告を出稿し、本学の教育内容の認知向上を図ります。
- ・学生や卒業生の活躍、教員の活動、ゼミでの活動など、「本学の今の動き」をより具体的に発信するオウンドメディアを新規構築します。
- ・音楽学科の2020年度定期演奏会では、4年に一度の「メサイア」の公演のほか、舞踊専攻の卒業公演、年度公演も引き続き行います。

③国際化の推進

- ・TOEIC講座受講料の補助、TOEICテスト受験料、IELTSテスト受験料の補助を引き続き行います。
- ・派遣留学に必要な外国語スコア取得を目指し、英語:IELTS、中国語:HSK、韓国語:ハングル検定の課外補修講座を引き続き開講します。また留学が決定した学生向けに、ネット型課外英会話講座も継続します。
- ・海外大学との交流促進のための国際教育交流フェアへ教職員を派遣

- し、既存の協定校との面談のほか、新規協定校開拓の機会を作ります。
- ・GE161(2)履修者全員にEXPOCITY内のOsaka English Villageへの参加を義務づけることで、英語コミュニケーション能力の向上を目指した取り組みを継続します。「英語手帳」を使った学習も継続します。
- ・英文学科1年生の希望者を対象として開講する英語コミュニケーション能力強化短期集中プログラムに、経費負担の補助を行います。
- ・遠隔同時会議・通訳システムを引き続き活用し、海外とライブで双方向的な授業を展開します。学生の国際感覚の醸成、語学力の向上に加え、研究面では遠隔地との会議の簡易化を図ります。
- ・2004年に提携した文学研究科とケンブリッジ大学クレアホールとの協定を更新(2020年~2024年)し、大学院生、本学教員に引き続き充実した研究活動の機会を提供します。

④社会連携の強化

- ・東京音楽大学、昭和音楽大学との音大連携による講座を継続し、ザルツブルク音楽院のウェブレッスン等を実施します。
- ・2018年度から開始した英文学科2~3年生対象の「戦略的人生設計への試み」を継続し、多様な業界の方々による講演会、グローバル企業でのインターンシップ、メンタリングセッションなどを実施します。
- ・2020年度も研究室における食品や化粧品の研究成果を基に、企業と産学連携を行い、本学にふさわしい大学ブランド商品を開発します。

⑤リベラルアーツ教育の推進

- ・卒業時アンケートに加え、入学時のアンケートを新たに実施し、在学中のリベラルアーツ教育・カリキュラムの効果測定を行います。学修成果を可視化し、全学的なIRの取り組みにつなげます。

2. 中高部

- ・卓越した学習環境の中で、キリスト教教育、リベラルアーツ教育、国際理解教育、生徒主体の学校生活により、豊かな人間性とリーダーシップを育める教育を目指し、具体的には、①学修環境の充実、②カリキュラムの充実、③国際理解教育の充実、④一人ひとりの生徒へのきめ細かい学修支援に取り組みます。特に、2020年度は、ITセンターコンピュータシステムの更新を図ります。

3. 法人部門

- ・創立150周年に向けた取り組みとして、スローガンやステートメントの策定を目指し、それに紐づく事業を計画します。
- ・阪神・淡路大震災から25年の節目として、災害時に備え、学内事業者との連携強化及び各建物に防災グッズの配備を順次進めます。
- ・「働き方改革」推進に向けて、業務等の適正化を図ります。
- ・創立150周年に向けたキャンパス再整備計画推進のためのマスタープランの検討を継続します。
- ・古い型式のボイラー設備を廃止するため、文学館・図書館本館の空調熱源の屋外移設改修設計を行います。
- ・経年により防水機能が損なわれているタルカット館、ミリアム館屋上の防水改修を行います。
- ・設置後40年近く経過した変電設備・トランスの更新を行います。
- ・2020年度末に廃棄処理が必要なPCB使用機器を適正に処分します。
- ・経年劣化により性能が低下しているエアコンの改修を行います。
- ・これまで計画的に進めてきた照明器具のLED化を継続して進めます。
- ・設置後20年以上経過しているアンジー・クルー館、ジュリア・ダッドレー館の昇降機について更新を図ります。
- ・2018年度に藤棚側に行った芝生の張替えについて、2020年度はグラウンド側で実施します。
- ・旅費規程の見直し作業を継続し、旅費関連事務の標準化を図ります。
- ・2016年度より開始したセキュリティ向上については、警備業者からのアドバイスを受けて、学院内のセキュリティ向上を図ります。

校地・校舎

・岡田山キャンパス

所在地 西宮市岡田山4番1号

校地面積 145,549.62 m²



- 1 正門
 - 2 音楽学部1号館
 - 3 音楽学部2号館
 - 4 ジョージ・オルチン記念音楽館
 - 5 エミリー・ブラウン記念館
 - 6 文学部1号館
 - 7 文学部2号館
 - 8 デフォレスト記念館
 - 9 図書館本館
 - 10 理学館
 - 11 総務館／エミリー・ホワイト・スミス記念講堂
／ソールチャペル
 - 12 文学館
 - 13 理学館別館・心理相談室
 - 14 社交館
 - 15 新社交館
 - 16 メアリー・アンナ・ホルブルック記念館
 - 17 第一体育館
 - 18 第二体育館
 - 19 第三体育館
 - 20 テニスコート
 - 21 購買部
 - 22 シェイクスピア・ガーデン
 - 23 図書館新館
 - 24 ジュリア・ダッドレー記念館
 - 25 エッジウッド館
 - 26 ケンウッド館
 - 27 メアリー・アンド・グレイス・ストウ学生寮
 - 28 岡田山ロッジ
 - 29 大学クローバー館 (クラブハウス)
 - 30 茶室 (松風庵)
 - 31 ミリアム館
 - 32 汽罐室と煙突
 - 33 アンジー・クルー記念館
 - 34 コミュニケーションセンター
 - 35 葆光館 (中高部)
 - 36 ヴァージニア・クラークソン記念館
 - 37 タルカット記念館
 - 38 めぐみ会館 (同窓会館)
 - 39 Kobe College International Students House
- は重要文化財

・東京寄宿舍クローバーハウス

所在地 東京都渋谷区大山町8番7号

敷地面積 367.46 m²